

**令和2年度に使用する小学校教科用図書の  
選定に必要な資料**

**令和元年度作成**

**鳥取県教科用図書選定審議会**



国語

国語	国語	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい国語
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字が教材の脚注に□で示され、巻末の漢字一覧表には画数や筆順、読み方や使い方がまとめられている。(3年上P11、164)</p> <p>イ どの学年においても、各単元のはじめと終わりに「言葉の力」として身に付けさせたい力(指導事項)が明確に示されている。(3年上P16、27)</p> <p>ウ 「ことばあつめ」「言葉の広場」等、語彙指導に関する内容を扱うページを設定している。(3年上P147、158-159)</p> <p>エ *で示された「使えるようにしたい言葉」が脚注にあり、単元末のまとめで文づくりにつながるように設定されている。(3年上P43-P44、47)</p> <p>オ 単元のおわりに「ふりかえる」が設定してあり、どんなことに主眼をおいて学習を行ってきたのかを振り返ることができる。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 2年生以上の各学年巻頭に「国語の学習の進め方」を折り込みで掲載し、学習を進める際の手順を明確にしている。(3年上P6)</p> <p>イ 全学年において国語ノートの作り方の例が示され、3年生以上の学年では、メモの取り方や図や表の使い方等調べ学習の手立てが示されている。(3年上P28-29)</p> <p>ウ 読書の幅を広げる工夫として、各学年の「本は友達」では、「〇年生の本だな」が示され(3年上P104-105)、「読む」の単元においては、発展読書教材として「こんな本もいっしょに」が示されている。(3年上P27)</p> <p>エ 練習教材Dコンテンツでは、学力調査による子どものつまずきポイントをもとに、苦手な部分を繰り返し練習ができる教材を配信している。(3年上P4、15)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 2年生以上の4月の単元は、1年間の学習の導入として「話す・聞く」「書く」の小単元と「読む」の単元を系統的に配置している。(3年上P10-14、17-27)</p> <p>イ 各学年の「読む」(説明文)の学習においては、「読解」→「読み比べ」→「情報活用」→「共有」という学習過程を意識して教科書内に単元を配置している。</p> <p>ウ 1～4年生が上下分冊、5・6年生が学年一冊の構成となっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 3年生以上は、単元冒頭に「覚えているかな」として、単元の学習に関連の深い既習の「言葉の力」(指導事項)を提示している。(3年上P16)</p> <p>イ 単元末のまとめに各単元を貫く「問い」を設定し、振り返りの視点を明確にすることで、問題解決的な学習を促す工夫がなされている。(3年上P26-27)</p> <p>ウ 「書くこと」の小単元では、情報の扱い方に重点を置いて展開し、他教科や生活の中でも使える汎用的な力の育成を図っている。(3年上P12-13)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 日本語の豊かさに触れる教材として、慣用句や俳句等の伝統的な言語文化を取り上げた「伝えたい言の葉」、2年生以上の各巻に四季折々の自然や風物を表現した「季節の足音」をシリーズで設定している。(3年上P86、P110)</p> <p>イ スタートカリキュラムへの対応として、1年生の第1教材ではリズムカルな言葉を楽しんだり、身体表現と言葉の学びをつないだりする題材を取り入れている。(1年上P0-7)</p> <p>ウ ローマ字は3年生及び4年生で学習。活用することを意識したローマ字一覧表が掲載されている。(3年上P84)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 特別支援教育への配慮として、助詞の意味と使い方を視覚的に表現したり、特殊音節を動作化して理解できるよう表記を工夫したりしている。(1年上P34-35、68)</p> <p>イ 防災・安全、情報化社会への対応など、子どもが将来にわたって向き合うべき諸課題を扱う教材・題材が採用されている。(6年上P52、75-81)</p>

国語	国語	発行者番号 11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ 小学校国語
----	----	----------	-------	-----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 漢字の新出または読み替えの新出箇所には、本文にルビを振って読みを表示し、さらに脚注に新出・読み替えの区別をするマークで示されている。(3年上P13、16)</p> <p>イ 巻末資料編に各学年で学ぶ言語事項がまとめられており、各単元末に設定されている「言葉のカギ」と連動している。(3年上P27、136-137)</p> <p>ウ 語彙指導の充実のため、「読むこと」の脚注に辞書引き理解語彙が設定されている。また、語句・語法は「言葉のきまり」に、言葉や語句に関する知識は「言葉のいづみ」に整理されている。(3年上P16-17、80)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 上巻冒頭に教科書の使い方や学び方・考え方、付けたい力を折り込みで配置し、紹介している。(3年上P6-11)</p> <p>イ 「読書活動単元」「生活読書教材」「図書紹介」「情報活用」など、豊かな読書生活や主体的な情報活用を意図した読書単元を設定している。(3年上P50-51、62-63、94-95、108-109)</p> <p>ウ QRコード対応コンテンツに、学習の単元末のまとめやワークシート、学習に関連する情報への外部リンク等を掲載している。(3年上P44)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 複数の文章を比べて読み、多面的に考える「比べ読み教材」や、文章と対話し、探究的に読む「対話読み教材」(4年生以上)などを設定し、読む目的や意図を明確にしている。(4年下P9-17、24-27)</p> <p>イ 日常生活と関連した必要感のある内容を「書くこと」の単元の題材として設定し、多様な表現方法を学ぶことで、実生活で生きて働く力の育成を図っている。(3年上P124-127)</p> <p>ウ 情報活用能力の育成のため、論理的思考力教材、感性的思考力教材を取り入れたり、図化・表化・イメージマップなどの言語活動を設定したりしている。(3年上P62-63)</p> <p>エ 持ち運び時の負担を考慮し、上・下巻の二分冊としている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元の冒頭にめあてと学習の見通し、終末に振り返りの視点が示されており、学びの流れに沿った紙面構成がなされている。(3年上P16、26-27)</p> <p>イ 単元末のまとめで、読解の手順や過程が詳しく示されている。</p> <p>ウ 1年間の見通しとゴールイメージを明確にするため、各学年の巻末に、「学びに向かう」として、1年間の学習を振り返り、自分の思いや考えを表現する活動を設定している。(3年下P118-120)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 全学年において、「話す・聞く・話し合う活動」に関する内容を系統的に配置している。</p> <p>イ 幼児教育との円滑な接続を図るため、絵から見えてくることを話し合ったり言葉遊びを楽しんだりするなど、幼児期の体験や知的な気付きを活かしながら表現できるようにしている。(1年上P0-21)</p> <p>ウ ローマ字の学習を3年生で完結しているが、付録として高学年の下巻でもローマ字表が示されている。(5年下P164、6年下P162)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア キャリア教育に関連して、夢をもち努力することや、働くことへの喜びを感じたりすることができる教材を多数掲載している。(3年下P22-29)</p> <p>イ 情報化社会・人工知能の進化への対応、環境教育など、日常生活と関連した必要感のある内容を題材にしている。(5年上P106-117、6年下P10-23)</p>

国語	国語	発行者番号 17	略称 教出	書名 ひろがる言葉 小学国語
----	----	----------	-------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「〇学年で学んだ漢字」として、前学年に学習した漢字を使って場面に合う文を作るなどの言語活動を設定している。(3年上P48)</p> <p>イ 教科書上巻冒頭に「〇年生で学ぶこと」、巻末に「これまでこれから」を設け、学習内容や育成を目指す資質・能力について1年間の学習の見通しを示している。(3年上P4、3年下P125)</p> <p>ウ 各単元で学んだ言語事項・文法について繰り返し学習できるよう、巻末付録「言葉の木」では発達段階に応じて身に付けたい言葉を一覧で示し、「言葉のまとめ」では文型のまとめを示している。(3年上P142-143)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習の進め方が脚注にまとめて示されている。(3年上P28-29)</p> <p>イ 日常生活で言葉の力を生かせるよう、手紙の書き方、電話のかけ方などの情報が各学年の巻末に示されている。(3年下P110-111)</p> <p>ウ 読書指導の充実を図るため、図書の紹介を単元末のまとめと巻末ページにおいて展開したり(3年上P138-141)、図書館利用や活用についての解説のページ(4年上P46-47)を設定したりしている。</p> <p>エ ウェブサイト連動「まなびリンク」では、教科書で学ぶ教材に関連した新しい情報を得られるよう、発展的なコンテンツを配信している。(3年上P6、67)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1つ単元の中に複数の領域を設定することで、テーマを貫いた様々な言語活動を取り入れている。(3年上P7-12)</p> <p>イ 「話す・聞く」では、話し合いや説明、パネルディスカッションなど、「書く」では報告文や観察記録文など、各領域において多様な言語活動に取り組むことで、日常の場面で生きて働く言葉の力の育成を図っている。(3年上P32)</p> <p>ウ 情報の扱い方に関する学習を設定し、情報活用のポイントを示している。(3年上P68)</p> <p>エ 持ち運び時の負担を考慮し、上・下巻の二分冊としている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元扉の「学習の目標」と、単元末のまとめの「ここが大事」が連動しており、単元のスタートとゴールのイメージが明確に示されている。(3年上P38、41)</p> <p>イ 「読むこと」の教材の単元末のまとめは、新学習指導要領で示された学習課程に対応した4ステップ構造で示されている。(3年上P28-29)</p> <p>ウ 単元の終末に「ここが大事」を設定し、他の教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントを提示している。(3年上P41)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 低学年は言葉遊びや昔話によって伝統的な言語文化に親しみ(1年上P120-121)、中学年は十二支や俳句等生活の中でその存在を感じ(3年上P62-67)、高学年は物語を楽しみながら古典の世界を楽しむことができるよう(5年上P66-71)、系統的に教材が配置されている。</p> <p>イ 1年生の第1教材ではイラストをもとに子どもたちの「気づき」を引き出したり、生活科や書写との連携した合科的な指導場面を取り入れたりするなど、スタートカリキュラムを意識した教材が設定されている。(1年上P0-23)</p> <p>ウ ローマ字は3年上のみで完結している。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 東京パラリンピック、防災、AIとの関わり、触って分かる点字の表の掲載など、社会の多様性に触れ、さまざまな人々と共存・共生しているという実感を得られるような題材を取り入れている。(4年下P97、5年上P112)</p> <p>イ カラーユニバーサルデザイン、UDフォントを取り入れ、誰にでも読みやすい教科書となるよう配慮がなされている。</p> <p>ウ プログラミング的思考を取り入れた教材を設定している。(2年上P126-129)</p>

国語	国語	発行者番号 38	略称 光村	書名 小学校 国語
----	----	----------	-------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字を各ページの脚注、単元末、巻末に提示している。(3年上P16、29、152)</p> <p>イ 各単元末に「たいせつ」として付けたい力(指導事項)を示し、巻末に『「たいせつ」のまとめ』として、指導事項を領域ごとにまとめている。(3年生上P43、130-133)</p> <p>ウ 各学年で習得したい語彙を「学習に用いる言葉」として巻末の折り込みで示し、思考や表現の助けとして活用できるようにしている。(3年上P159-160)</p> <p>エ 2年生以上の各巻巻末に「言葉の宝箱」を設定し、発達段階に応じた語彙を「考えや気持ちを表す言葉」として提示している。(3年上下P157-158)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭に「国語の学びを見わたそう」を設定し、基本的な学び方を示している。また、「学年で学習すること」では、各領域における前学年とのつながりを明記している。また、「〇学年で学習すること」では、各領域における前学年とのつながりを明記している。(3年上P4-P8)</p> <p>イ 巻末付録に手紙の書き方や原稿用紙の使い方等学び方に関する情報や、発展的な読書を促す読み物教材を掲載している。(3年上P129-P147)</p> <p>ウ 「続けてみよう」のページにおいて継続的な言語活動を促すと同時に、日記や作文の書き方・見本等が示されている。(3年上P14)</p> <p>エ 教科書連動コンテンツ「広がる学び深まる学び」において、言語活動の手本となる動画や学習の参考となる資料等を配信している。(3年上P42)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「読む」領域(説明文)において、練習教材と本教材をセットで掲載することで、段階的に学びを深めることができるよう工夫されている。(3年上P47-59)</p> <p>イ コミュニケーション能力の育成を促す教材として、「言葉の準備運動」を各学年のはじめに設定するほか、2年生以上に「対話の練習」や、コミュニケーションの在り方について考えるコラムを設定している。(3年上P44)</p> <p>ウ 情報活用能力の育成を図るため、「読むこと」「書くこと」の複合単元の中で、多様な媒体に応じた調べ方を扱っている。(3年下P41-55)</p> <p>エ 1-4年生は分冊、5、6年生は1冊の構成</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元扉にこれまでの学習とのつながりや作品・文章の導入と読みの着眼点等が示されている。(3年上P15、47)</p> <p>イ 単元末のまとめで、学び方・言語活動を進めるための手順や留意点が具体的に示されており、例示も多く示されている。(3年上P26-27)</p> <p>ウ 単元末に「いかそう」のコーナーが設けられ、他教科や生活に活かす場面が示されている。(3年上P28)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典文学にふれる教材に加え、しりとり、言葉遊び、回文、俳句、慣用句、落語、能・狂言など、長い時を超えて受け継がれてきた言語文化や伝統芸能等の教材も充実している。(3年上P85-87)</p> <p>イ 1年生の第1教材は、絵を見ながら想像したことを発言したり、ゲームをしながら対話したり、リズムをとりながら書く姿勢を学んだりするなど、子どもの経験を生かして学べるような配慮がなされている。(1年上P0-31)</p> <p>ウ ローマ字は3年生で完結、4年生以上は巻末(4年生は上巻のみ)にローマ字表を掲載している。(3年上P124-128、下P114-115)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 実際に触って実感できる点字表や指文字の掲載、固有種や絶滅危惧種をテーマにした読み物など、現代社会の課題に対応した教材が多く掲載されている。(5年P137-147、251-252)</p> <p>イ 特別支援教育の観点から、「たいせつ」など重要なポイントは目につきやすい色ではっきり囲むなど、すっきりとしたレイアウトになっている。(3年上P28)</p> <p>ウ プログラミングに関する話題が掲載されている。(6年P199-200)</p>



書寫

国語	書写	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい書写
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 始筆から送筆、終筆までの筆の動きがよくわかるように「とん、すう、ぴたっ」などの擬態語を用いて示されている。(3年P12-13、4年以上P8-9)</p> <p>イ 文字を書くときの姿勢として「ぺた、ぴん、とん」などの擬態語で示されている。(1年P2-3、2年P4-5、3年以上P6)</p> <p>ウ 文字の組み立て・筆順・毛筆の穂先の通り道を、色分けして示している。(3年P18)</p> <p>エ 学習用語を「書写のかぎ」として示している。(3年P11)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 児童自身が課題意識を持って取り組めるように「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返って話そう」という学習の流れが示されている。(全時間)</p> <p>イ 他の学習事項との関わりが確認しやすいようにインデックスを設けている。(3年P44-47)</p> <p>ウ 巻末にこれまで学んだ大事なポイントが全て示されている。</p> <p>エ Dマークがあるページでは、インターネットを使った学習ができるようになっている。(3年P0、P4)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「生かそう」では、毛筆で学習した原理・原則を硬筆に生かすように構成されている。(3年P44-47)</p> <p>イ 最終単元「学びを生かそう」の中では、1年間の学びを振り返り、自分のめあてを決めて取り組む教材が示されている。(3年P37-39)</p> <p>ウ 前学年の既習事項が目次に示されている。(3年P0-2)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 文字を整えて書くための原理・原則を自分で見つけ、それをめあてとして、確かめながら書けるようになっている。(2年P32-33)</p> <p>イ 「あつめてつかおう、しょしゃのかぎ」を示して、書写への関心を高めている。(1・2年P0-1)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「生活に広げよう」が各学年で示されており、他教科の学習や生活で書写の学びを生かせるように設定されている。(3年P20、26-27)</p> <p>イ 「書いて味わおう」では、伝統文化に触れられる設定がある。(3年P36)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「筆づくりにこめた思い」では、写真資料が示されている(3年P57)など写真資料が示されている。</p> <p>イ 「文字のいずみ」の中で、文字の世界を広げる設定となっている。(3年P21)</p>

国語	書写	発行者番号 11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ 小学校書写
----	----	----------	-------	--------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 毛筆の運筆の仕方や筆圧について「トン、スーッ、ピタ！」などの分かりやすい具体的な言葉と写真で示されている。(3年P9、13、4年P39、5年P15)</p> <p>イ 筆のおろし方、片づけ方、小筆の持ち方等の筆記具の扱い方が具体的に示されている。(3年以上巻頭)</p> <p>ウ 毛筆の筆づかいについて具体的に示してある。(3年P6-7)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学習の進め方」では、自主的な学習になるように、書写の技能を獲得するプロセスが図や写真を使って示されている。(1年P20-23、2年P6-9、3年P24-27、4年以上P10-13)</p> <p>イ 試し書きとまとめ書きを比べることで、効果的な学習ができるようになっている。(3年P26)</p> <p>ウ 3年生以上では、毛筆の手本が実物大で掲載されている。(3年P20-21、4年P14-15、5・6年P18-19) また、書き初めの手本が巻末の折り込みで掲載されている。</p> <p>エ 硬筆のワークシートがあり、書き込めるようになっている。(3年P10、4年P17)</p> <p>オ シールを活用して、単元のポイントを意識できるようになっている。(1年P10、2年P26)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各単元とも毛筆から硬筆につなげる学習構成となっている。(3年以上)</p> <p>イ 前学年の既習事項を硬筆で振り返ることができるようになっている。(4年P6-9)</p> <p>ウ 学年の最終単元で、1年間の学びを振り返り、身につけた技能を硬筆で確認できるようになっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 巻末に「書写の資料館」として、文字に関わる様々な資料を掲載している。(3年P46-51)</p> <p>イ キャラクターを登場させて、大事なところを示している。(3年P0、4)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 6年生の「発展のページ」では、中学校書写へつなげるために、行書が取り上げられている。(6年P50-51)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 裏表紙に「保護者の方へ」というメッセージで、単元ごとの身に付く力とQRコードの説明をすることで、書写教育についての理解を求めている。</p> <p>イ 3年生以上では、獲得した技能が生かせる場として、「書写の資料館」の中ではがきや手紙の書き方や原稿用紙の使い方などを示している。(3年以上折り込み)</p> <p>ウ いろいろな筆記具が取り上げられており、用途に応じて使い分けることが意識できるように設定されている。(2・5年P5)</p>

国語	書写	発行者番号 17	略称 教出	書名 小学 書写
----	----	----------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 運筆の流れを「とん、すう、びたっ」などの擬態語を用いて説明している。(1年P45-46、2年P8-9、3年P12)</p> <p>イ 毛筆の入門期に、筆圧を「①ちゅん②とっ③とん」と擬態語で示している。(3年P9)</p> <p>ウ 筆順通りに書くことの大切さが学年に応じて示されている。(3年P30)</p> <p>エ 鉛筆の持ち方やよい姿勢について、擬態語を用いて示している。(1・2年P5)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習用語を押さえて、友達と交流して相互学習できるように設定してある。(2年P19、4年P17)</p> <p>イ 全学年を通して、自主学習ができるように「学習の進め方」が示されている。(3年P1-2)</p> <p>ウ 試し書きとまとめ書きを比べることで、学習の成果を自己評価できる設定がしてある。(3年P13)</p> <p>エ 「練習用紙の作り方」を示し、各自のめあてに応じて練習ができるようなやり方を示している。(5・6年P8)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各学年とも「はじめの学習」として、姿勢、学習の進め方、用具の扱い方などを示している。(3年P4-10)</p> <p>イ 3年生以上では、各単元とも毛筆から硬筆につなげる学習構成となっている。(3年P13)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 4年生の「文字の組み立て方」で、課題を選択できるようにしてある。(4年P34-37) 6年生では、「文字の組み立て方」に気をつけて、好きな言葉を選択して書くことができるようにしてある。(6年P30-33)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「レッツトライ」「書いて伝え合おう」では、書写で学習したことが他教科や生活の場で生かせるように手本が示されている。(3年P21-23、48-49)</p> <p>イ 「発展」では、次の学年につなげるために、1年生では文字の大きさ、2年生では毛筆の学習、6年生では行書が取り上げられている。(1年P37、2年P36、6年P44)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 各学年の巻頭ページや「知りたい文字の世界」で文字に関する様々な情報が紹介されている。(3年P16、4年P0-1)</p> <p>イ 「まなびリンク」としてQRコードが掲載しており、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっている。(3年P0)</p>

国語	書写	発行者番号 38	略称 光村	書名 書写
----	----	----------	-------	-------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 2年生以上の全教材で「たいせつ」を設け、文字を書くときの原理・原則や普遍性の高い書き方のポイントが整理されている。(3年P10-11)</p> <p>イ 鉛筆の持ち方が具体的に示されている。 (1年P6-7、2年P4-5、3年P10-11)</p> <p>ウ 1～3年生では、文字を書く時の基本的な姿勢が、正面と横向きの写真で示されている。(3年P6-7) また、4年生以上では、筆記具による姿勢の違いが示されている。(4年P4-5)</p> <p>エ 偏や冠の字形ともとの漢字との違いが分かるように色分けして、重ねて示している。(4年P8、12)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 低学年でも自主的に学習が進められるようにワークシートが多く設定してある。(1年P8)</p> <p>イ 1年生では「できたかな」、2年生以上では「ふり返ろう」を設定し、自己評価することができる。(3年P12)</p> <p>ウ 学習事項が認識しやすいように、ページの右上にインデックスを設けている。(3年P4)</p> <p>エ 何度でも使える水筆の練習用シートが添付されている。(1年巻末)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 2年生以上の教材では、「たいせつ」のまとめで、1年間を振り返ることができる。(3年P44-45)</p> <p>イ 3年生以上では「こう筆のまとめ」で、毛筆で学習したことを硬筆で確かめることができるようになっている。(3年P28)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「点画のつながり」の単元では、語句としてのまとまりや筆順とのつながりを意識して単元が構成されている。(6年P6-9)</p> <p>イ 「文字の配列」の単元では、文字の大きさや配列、筆記具の使い分け等を具体的に示している。(3年P32)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 3年生以上の巻末、折り込み資料に、書き初めや名前の書き方が示されている。(3年P53-56)</p> <p>イ 1・3・5年生の巻末に「空に大きく書こう」として、学年の復習へつながる設定がしてある。(3年P57)</p> <p>ウ 2・6年生では「発展」として、次学年や中学校の学習へつながる設定がしてある。(6年P53)</p> <p>エ 「言葉を楽しもう」では、文学作品に触れられる場面設定がなされている。(3年P36)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア QRコードで、学校や家庭で動画コンテンツが見られるようになっている。(3年P3、4-5)</p> <p>イ 「自分だけの一文字」では、若い世代の著名人からのメッセージが掲載されている。(6年P40-41)</p>

国語	書写	発行者番号 116	略称 日文	書名 小学書写
----	----	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア マスに書くときの位置が分かるように4分割したマスを示し、点や丸、かぎの書き方も取り上げられている。(1年P11、18、20、2年P7)</p> <p>イ 「画のおわり」「画のとちゅう」など、指導事項が明確になっている。(2年P6-9)</p> <p>ウ 「小筆で書こう」という単元があり、小筆の使い方が写真で示されている。(3年P20、4年P21)</p> <p>エ 単元ごとのポイントが「電球のマーク」で示されている。(3年P11)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習の進め方は、「考える→確かめる→いかす」の3ステップで構成されている。(3年P9)</p> <p>イ めあてを書き込む欄がある。(3年P35、41)</p> <p>ウ 全単元の「できたかな」で、ポイントが示されており、ふり返りをして自己評価ができるようになっている。(3年P9)</p> <p>エ 「自分の文字と向き合って」では、課題意識を持って取り組めるように設定されている。(5年P13、6年P6、7)</p> <p>オ 何度でも使える水筆の練習用シートが添付されている。(1・2年巻末)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 最終単元では、1年間の学びを生かしながら取り組むまとめの教材が示されている。(3年P40-41)</p> <p>イ 3年生以上では、学習の流れを右ページ、手本を左ページに示し、見開きページで完結するように構成されている。(3年P12-13)</p> <p>ウ 名前を書いてある大きな手本が2か所ずつ示されている。(3年P36-37、巻末)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「かん字②」では、左払いの字を集めて、それぞれの方向の違いが示されている。(2年P25)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「言葉の窓」では、語彙を増やすための学習活動が設定されている。(3年P34)</p> <p>イ 「書く速さのちがい」では、場面や目的に応じて書く速さの違いを示している。(5年P20-21)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「国語の広場」では、他教科との関連した学習内容を示している。(3年P42-43)</p> <p>イ 「生活と書写」では、獲得した書写力を日常生活で生かせるように、様々な手本が資料で紹介されている。(3年P44-46)</p> <p>ウ 「いろいろな書き方」では、速く書くときの、漢字の形の変化と注意点が示されている。(5年P43)</p>

社会

社会	社会	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい社会
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習を進める上で習得すべき用語を「ことば」として別枠に示し、簡潔に説明している。それらを巻末索引に一括掲載している。</p> <p>イ 巻頭・巻末で、前学年、該当学年の学習内容が、写真と短い言葉で掲載されており、学年間の系統性と関連性をつかめるようにしている。</p> <p>ウ 「まなび方コーナー」を設定し、社会科において必要な知識や技能（電話のかけ方、まとめ方など）の習得の方法が示されている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 見開き2ページで1時間を構成し、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4部構成になっており、毎時間の学習問題が明記されている。</p> <p>イ 「まとめる」活動では、「文章で」「発表で」「話し合いで」などと様々な表現活動例が紹介されている。また、宣伝シールやカード、地図にまとめるなど多様な方法を示している。（3年P50、51、4年P70、71等）</p> <p>ウ 比較や発表、補充の扱いを可能にするために、単元末に「ひろげるコーナー」を設け、関連資料を掲載している。（4年P52-53 水→電気、6年(歴)P62 茶の湯体験等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 6年では、「政治・国際編」と「歴史編」に、5年では「上」「下」に分冊となっている。</p> <p>イ 「教科関連マーク」をページ下段に設け、他教科との関連を具体的に示し、カリキュラムマネジメントをしやすくしている。（4年P35 算数「1億より大きい数」P76理科「天気の様子」等）</p> <p>ウ インターネットを使った学習を補助する「Dマーク」を設け、目次にも「Dマーク」の場所を示している。（3年P70、5年(下)P15等）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 4年「残したいもの伝えたいもの」では、建築、芸能、祭りを並列的に扱い、共通する概念の抽出を目的とした構成となっている。</p> <p>イ 4年「ごみのしよりと利用」では、多様なごみ処理の課題に目が向くように、児童の参画を促す課題、内容の構成となっている。</p> <p>ウ 4年「自然災害からくらしを守る」では、地震を大きく扱っている。</p> <p>エ 5年「わたしたちの生活と食料生産」「わたしたちの生活と工業生産」では、具体的な事例を学ぶ前に学習内容の基礎となる事項を設定している。</p> <p>オ 6年「わたしたちの生活と政治」では、小単元を日本国憲法、政治のしくみと選挙とし3つ目に選択で政治の働きについて2例を挙げている。</p> <p>カ 6年「日本とつながりの深い国々」では、「アメリカ、中国、韓国、サウジアラビア」の4か国を扱い、情報の量が多い。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア キャラクターを用いて、「位置や広がり」「時間」「かかわり」「比べる、分類する、総合する、関連づける」という視点で社会事象を考えることをアドバイスしている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 消費税の増税について、立場を変えて政党の意見の相違を考えさせる記述がある。（6年(政)P26）</p> <p>イ 東日本大震災の復興に政治の働きが大きく関与していることを詳しく述べている。（6年(政)P46）また、原発事故にふれて政治の関わりの大切さが記述されている。（6年(政)P57）</p> <p>ウ 拡大する西之島の姿を提示して、領海の広がりについての記述がある。（5年(上)P15）</p>

社会	社会	発行者番号 17	略称 教出	書名 小学社会
----	----	----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 習得すべき用語を「キーワード」として整理し、単元末に「まとめる」コーナーを設け、キーワードを穴埋めする問題形式等で掲載している。</p> <p>イ 学習の意識づけができるよう、各学年巻頭に「社会科の見方や考え方」の視点や方法を例示したページを設けている。第3学年の巻末に「社会科ガイド」を設け、活動方法を具体的に示している。(3年P160-171)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 見開き2ページで1時間を構成し、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の4部構成になっている。学習の連続性を意識させるために「この時間の問い」とあわせて、「次につなげよう」欄を毎時間設定している。</p> <p>イ 「学びのてびき」ページでは、思考ツールを用いた表現活動を提示し、学んだことを整理しやすくしている。(5年P64等)</p> <p>ウ 「ひろげる」コーナーを設け、発展的な内容を掲載している。また、それぞれの内容に即した資料も掲載している。(6年P198、199等)</p> <p>エ 3年では、「学習の進め方」を巻頭で紹介すると同時に、「活動」のコーナーを設け、具体的な活動案を掲載している。(3年P2-3、P18等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア インターネットを使った学習を補助する「まなびリンク」を設け、ホームページとリンクできるようにしている。(5年P87、146等)</p> <p>イ 4年、5年では、選択教材が多く設定され、地域や学校の実態に応じた選択ができるようになっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 3年「わたしたちの市の歩み」では、「かわる道具とくらし」と「市のうつりかわり」を別章にして、それぞれの内容で課題を整理した単元構成となっている。</p> <p>イ 4年「地域で受けつがれてきたもの」では、芸能に絞り、複数の内容を例示して、探究できる構成となっている。</p> <p>ウ 4年「自然災害にそなえるまちづくり」では、地震を中心にし、選択で水害、火山、雪害を設定している。</p> <p>エ 5年「未来を支える食料生産」「未来をつくり出す工業生産」では、単元のはじめに学習内容の基礎的事項を設定しないが、中心となる事例に多くの情報を載せている。</p> <p>オ 6年「日本とつながりの深い国々」では「アメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビア」の4か国と、別に「韓国」を取り上げている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア キャラクターの吹き出しを利用して、イラストごとに「時期や変化」、「場所や広がり」、「くふうや関わり」、「比べる」、「関連づける」、「総合する」といった視点や方法を区別し、具体的に示している。</p> <p>イ 資料に記号を付け、吹き出しや本文に記号を示し、資料を活用した学習ができるよう促している。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「ともに生きる暮らしと政治」の単元の導入として、パラリンピックを取り上げ、基本的人権の尊重された姿について、理解を促している。(6年P6-9)</p> <p>イ 参政権の歴史について随所に取り上げ、政治参画に向けた主権者教育に力点をおいた構成となっている。(6年P46、230等)</p> <p>ウ 別枠に、最新の今日的な課題を数多く取り上げて、多様な見方・考え方が育つ配慮がなされている。(6年P17等)</p>

社会	社会	発行者番号 116	略称 日文	書名 小学社会
----	----	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 習得すべき用語を「キーワード」として別枠に示し、図や文で掲載している。巻末に索引を設け、重要語句を一括掲載している。また、学習した地名と場所を確認できるよう日本地図を配置している。</p> <p>イ 巻頭に前学年の学習内容を振り返るページを設置するとともに、該当学年の学習内容を示すことで、系統性や関連性を示している。</p> <p>ウ 「学び方・調べ方コーナー」を別枠で示し、身につけるべき技能を「見る・調べる」「表現する」「読み取る」と項目ごとにまとめて掲載している。(4年P12、29、5年P12-13等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア すべてのページに同じフォームで「本時の学習問題」、次に「本時の学習活動」が設定されるなど、1時間の学習の流れが明確に示されている。</p> <p>イ 「やってみようコーナー」を設け、地図帳や地球儀を活用する活動やテーマを持って話し合う活動を促している。(4年P13、6年P42等)</p> <p>ウ 大単元の終末に、発展的内容を調べられるよう「わたしたちの学びを生かそうコーナー」を設け、関連内容を掲載している。(5年P186-187等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア インターネットを使った学習を補助する「デジタルマーク」を設けている。(5年P218、6年P25等)</p> <p>イ 4年、5年では、選択教材が多く設定され、地域や学校の実態に応じた選択ができるようになっている。</p> <p>ウ 「さらに考えたい問題」で発展的な展開を促している。(5年P259)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 3年「市のようにすくらしのうつりかわり」では、地域見学における調査の仕方やまとめ方を丁寧に扱い、初めて社会科を学ぶ児童の思考に沿った課題の流れで構成されている。</p> <p>イ 3年「安全なくらしを守る」では、消防と警察の仕事を分けずに1単元として大きく扱っている。</p> <p>ウ 3年「市のようにすくらしのうつりかわり」では、交通手段の変化を軸に内容を分け、その変化にともなう市と市民の暮らしの変化を、総合的に気づける課題の構成となっている。</p> <p>エ 4年「自然災害から人々を守る活動」では、多発する水害を取り上げ、児童の生活体験に基づき、課題を見つける構成となっている。また、水害について大きく扱い、さらに選択学習として4つの事例を挙げている。</p> <p>オ 5年「情報社会に生きるわたしたち」では、新聞が完成するまでの過程に沿って情報の意味や課題について考えを深めていく構成である。</p> <p>カ 5年「わたしたちの食生活を支える食料生産」「工業生産とわたしたちのくらし」では具体的な事例を学ぶ前に基本的な内容を設定している。</p> <p>キ 6年「つながりの深い国々のくらし」では、「アメリカ、中国、ブラジル」の3か国と「さらに」として「韓国」を取り上げている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「見方・考え方コーナー」を設け、「空間」「時間」「関係」と多面的な視点で社会事象を考えることをアドバイスしている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 情報モラルの大切さに触れて、イラストを多用し情報利用の際に配慮すべき点について詳しく言及している。(5年P202-203等)</p> <p>イ 復旧・復興に政治の影響が強く働いていることを示す事例として、広島豪雨水害(選択)の復旧について取り上げている。(6年P38)</p>

# 地图

社会	地図	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい地図帳
----	----	---------	-------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 鳥瞰図を用いて町を見渡し、真上から見ると地図になるという地図の概念が説明しており、地図を初めて扱う学年に対応した構成になっている。(P7-10)</p> <p>イ 日本の最北端、最南端、最東端、最西端の島の説明と共に、国土の構成がわかるように書いてあり、海の地形や深さなど色分けして表現されている。(P15-16)</p> <p>ウ 地図上の地名数や特産物など、多くの情報が記載してある。(P17、P23-54、P57-68)</p> <p>エ 日本の領土の変遷を記載している。(P78)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア キャラクターを随所に使って、地図活用の手がかりを児童の言葉で表現している。(P5、6等)</p> <p>イ 意欲的に学習に取り組める工夫として、索引にチェック欄があり、調べたところの履歴が残るようになっている。(P87-96)</p> <p>ウ 「くらべてみよう日本と世界」のページでは山、川、島、建物などがリアルなイラストで世界と比較してあり、児童の興味・関心を引く内容となっている。また、日本と世界の主な高い建物を取り上げている。(P81-82)</p> <p>エ 巻末に二次元コードやホームページアドレスが記載してあり、クイズや動画など、児童が興味・関心のある活動に取り組める内容になっている。(P96)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 日本の水産業・農業・工業が同一ページにまとめて記載してあり、日本の産業の特徴をとらえることができる構成になっている。(P71、72)</p> <p>イ 工業生産額が多い都道府県や都市、国内貨物量が多い空港が色分けして表されているので、太平洋ベルトを視覚的にとらえることができる。また、具体的な工業製品がイメージできるよう日本の工業の分布にイラストが多く使用してある。(P72)</p> <p>ウ 気候、地形と水産業・農業・工業の関連が理解しやすいよう、日本の自然のページの後に 日本の産業のページがある。(P69-72)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 冒頭4ページにわたって国境や県境のないイラストが多数掲載されており、児童が学びたいという意欲が喚起される構成となっている。(P1-4)</p> <p>イ 視覚的に理解しやすい工夫として、主な国や地域との貿易額が地図上に色分けや円グラフの大きさで表されている。また、日本との輸出入の割合や主な輸出入品も色やイラストで示されている。(P73、74)</p> <p>ウ 年表とその時代背景が分かる地図が対応しており、その時代の世界の様子が理解できる構成になっている。(P75-78)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 南半球と北半球を反対にした地図が記載されており、視覚的に海洋の広さが理解できる構成となっている。(P86)</p> <p>イ 地球儀の使い方の写真が大きく、旧グリニッジ天文台の写真も掲載されていて児童の興味・関心を引くページ構成となっている。(P55、56)</p> <p>ウ 「土地の利用とおもな農産物」の地図の中に農作物の北限が記載してあり、児童の課題意識へとつながる。(P71、72)</p> <p>エ 日本の世界遺産が、豊富な写真で紹介されている。(P79、80)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 北方領土、竹島、尖閣諸島は島名と国境線が明示されている。竹島については「韓国に占拠され、日本は抗議を行っています」、北方領土については、「ロシア連邦が占拠を続けており、日本は一貫して返還を求めています」と明示されている。(P16、27)</p> <p>イ ワールドカップとオリンピックの開催地の入った地図が記載されているなど、児童の関心を引く情報を掲載している。(P85)</p> <p>ウ 過去の地震の震源地や台風、火山の被害など日本の自然災害に関する情報が見開きで記載してあり、ハザードマップも同ページに載っているので、自然災害とハザードマップの関連をとらえることができる。(P97-99)</p> <p>エ 国土の構成がしっかりわかるように、海洋部分も詳細に描写している。(P15-16)</p>

社会	地図	発行者番号 46	略称 帝国	書名 楽しく学ぶ 小学生の地図帳
----	----	----------	-------	---------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「地図帳の使い方」とは別に、「地図のやくそく」（方位、地図記号、距離の求め方など）のページがある。（P9-14）</p> <p>イ 季節ごとの気温と降水量の様子が、同じ縮尺で統一した地図で表されており、グラフも同一ページに記載されている。（P89、90）</p> <p>ウ 地図上の地名数などの小学校段階で必要な情報が精査して記載してある。（P31-72、P75-86）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「地図マスターへの道」のコーナーは、児童の興味・関心を引き出すことにつながり、自主学習に活用できる。（P20、38等）</p> <p>イ 二次元コードを活用することで、そのページに関連する情報を得ることができ、より資料活用能力を高めやすくなっている。（P4、37等）</p> <p>ウ 土地利用ごとに、色分けした下地に模様（地紋）を入れ、判別しやすくしている。（P31-72）</p> <p>エ 「日本の自然災害と防災」では、災害を防ぐ工夫を取り上げ、手書きの防災マップやまとめ方も記載してあり、児童が自主的に学習に取り組めるよう工夫がなされている。（P94）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 単元にあった図説、地図、鳥瞰図などが同一ページに記載してあり、総合的に理解が深まる工夫がなされている。（P32、36等）</p> <p>イ 日本の歴史年表の中に地図帳の参照ページが記載してあり、歴史的な場所と時代が連動する仕組みになっている。（P101、102）</p> <p>ウ 「地図のやくそく（3）」の学校の周りの地図に大仙古墳が距離を求める例として掲載されている。（P13）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 19ページから「広く見わたす地図」があり、31ページから各地方の詳しい地図が載っているので、学年に応じて地図を活用することができる。（P19-28）</p> <p>イ 地形と気候（P87-90）や産業と世界との結びつき（P97-99）のページが効果的に配列してあり、関連を捉えることができる。</p> <p>ウ 「自動車産業のさかんなようす」が分かりやすいように、関連工場の分布が表されたり物流が矢印で示されたりしている。（P55）</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 索引が4色に色分けで分類され、見つけやすくなっている。（P106-114）</p> <p>イ 都道府県の形が何に似ているかを問う簡単なクイズや「手話で表す都道府県」など児童が興味をもてる構成になっている。（P115）</p> <p>ウ 世界の各地域の地図に掲載されている写真にそれぞれの地域の子どもが写っているので、自分たちの生活と比較できる。（P76-86）</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「日本の領土とそのまわり」として、北方領土、竹島、尖閣諸島は島名と国境線が明示されている。竹島について「韓国が不法に占拠しています」、北方領土について「ロシアが不法に占拠しています」と示されている。樺太の南半分が白色で示されており、「現在は帰属が未定」と示されている。（P29、30）</p> <p>イ オリンピック・パラリンピックが開催された都市や開催年が記載してあり、児童の関心を引き内容となっている。（P100）</p> <p>ウ 「日本をながめてみよう」のページでは、日本に山地が多いことや海溝がすぐ近くにあることが理解できる。「南海トラフ」も目立つように記載してある。（P4-6）</p>



# 算数

算数	算数	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい算数
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元末に基礎的、基本的な学習内容の理解を確認するための「たしかめよう」を設定している。(3年下P19、4年下P38、5年下P27等)</p> <p>イ 巻末の「新しい算数プラス」に、難易度別2段階の補充問題を掲載している。(3年上P135-、4年上P139-、5年上P128-等)</p> <p>ウ QRコードやアドレスを活用して、教科書の内容に即したデジタルコンテンツが活用できるようになっている。(各学年)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻末の「新しい算数プラス」に、「おもしろもんだいにチャレンジ」として、発展的な問題を掲載している。(4年下P142、5年下P144等)</p> <p>イ 問題解決の学びの過程をまとめるノートづくりを示したページを、1年生は年1回、2年生は年2回、3年生以上は年3回設定している。(1年②P70、2年上P4-5、下P46-47、3年上P4-5、下P16-17、P82-83等)</p> <p>ウ その学年の学習内容に関係のある既習事項を、巻末算数プラスの「ふりかえりコーナー」にまとめている。(2-6年)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「倍」に関する学習内容を、3年生「倍の計算」、4年生「倍の見方」として、それぞれ1つの単元として設定している。(3年下P70-73、4年上P114-119)</p> <p>イ 1年生「長さ」「面積」「体積」の概念の基礎を養う学習について、3つの単元で取り扱っている。(1年②P26-、P55-、P106-)</p> <p>ウ 「かけ算」の単元を(1)と(2)に分けて、2学期に担当している。(2年下)</p> <p>エ 「単位量あたりの大きさ」と「割合」の間に「三角形と四角形の面積」を扱っている。(5年下P28-)</p> <p>オ 「データの活用」を1つの単元として扱っている。(6年P176)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 数学的な見方・考え方を統合的、発展的に捉えるポイントや新たな問いを創出する姿が記号や言葉で示してある。(3年下P10、4年上P76等)</p> <p>イ 分数と倍、分数とわり算を関連づけたページで、割合の考え方の素地をつくるようにしている。(2年下P88-89)</p> <p>ウ 統計に関わる学習では、児童が解決したくなる題材を取り上げ、PPDACサイクルを意識した展開にしている。(6年P176-189)</p> <p>エ 単元末は、「いかしてみよう」「たしかめよう」「つないでいこう算数の目」の3つで構成している。(2年上P49-51、3年下P18-20等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 2年生「グラフとひょう」の導入段階から、2項目について集まった情報を整理する内容を扱っている。(2年上P8)</p> <p>イ 2年生「長方形と正方形」は、タングラムを使った活動で導入を図っている。(2年上P104)</p> <p>ウ 各単元とも、すぐに本時の課題に入っている。</p> <p>エ 5年生「平均」の単元では、「ならず」という意味についての説明から入っている。(5年下P20)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア スタートカリキュラムを考慮し、1年生初期段階の学習に対応したノート機能を備えた分冊(A4版)の教科書がある。</p> <p>イ 学習内容を振り返る6年生最終単元「算数のしあげ」、数学と算数のつながりを知る「算数卒業旅行」を設定している。(6年P198-240)</p> <p>ウ 情報活用能力を育成する「算数で読みとこう」のページを設けている。テーマも現代的な教育課題から取り上げている。(6年P196-197等)</p> <p>エ 5、6年生にプログラミング教育に関連したページがある。(5年上P126下P134、6年P242-243)</p> <p>オ ユニバーサルデザインに対応した色使い、書体が配慮されている。(2年下P84、6年P181等)</p> <p>カ 6年生は年間1冊、1年生は①②、2年生から5年生は、上下巻になっている。</p>

算数	算数	発行者番号 4	略称 大日本	書名 たのしい算数
----	----	---------	--------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元末のたしかめ問題には、練習問題だけでなく、基礎基本のチェックやチャレンジ問題を掲載している。(4年P26、27、5年P120、121等)</p> <p>イ 毎時間の適用問題、それに対応した巻末の補充問題「プラス・ワン」を設定している。(5年P252-266等)</p> <p>ウ Webページのデジタルコンテンツで、用具の使い方を連続写真と動画で確認でき、その他の3D映像が見られる。(4年P243-245等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単元末の「たしかめ問題」に、チャレンジ問題があり、活用力を必要とする問題を入れている。(5年P120-121等)</p> <p>イ 5、6年生巻末に、「チェックアンドトライ」として、前学年までの学習のたしかめが2段階でできるようになっている。(6年P248-249等)</p> <p>ウ 各学年の巻末に、前学年までの既習事項を「〇年までのまとめ」としてまとめて掲載してある。</p> <p>エ 巻頭の「算数まなびナビ」に、学習の進め方やノートの使い方が示されている。(4年P6-9等)</p> <p>オ ウェブサイトに「保護者向けのサポートページ」を設定し、家庭との連携を図っている。(1年P177、2年P243等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1年生「ずをつかってかんがえよう」を単独の単元として設定している。</p> <p>イ 2年生は、2学期に「かけ算」、3学期に「かけ算のきまり」単元を設定している。</p> <p>ウ 倍と乗除法を一緒に扱った単元が、3年生と4年生に配当されている。(3年P226-、4年P156-)</p> <p>エ 「速さ」を1つの単元として扱っている。(5年P222-231)</p> <p>オ 「データの活用」が1つの単元として扱われている。(6年P60-80)</p> <p>カ 「分数のかけ算、わり算」を2学期に配当している。(6年P91-124)</p> <p>キ 「プログラミングに挑戦」のページを全学年に設定している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「じっくり深く学び合おう!」では、学び合い授業の流れを示したタグがページの横に示してある。(3年P81-83、4年P127-128、6年P108-111)</p> <p>イ 特設単元「読み取る力をのぼそう」では、思考力を育成する問題を盛り込んでいる。(4年P28-29、162、5年P109等)</p> <p>ウ 思考・表現ツールとして、テープ図や数直線図の指導を充実させている。(2年P181、3年P91、4年P274)</p> <p>エ 統計的探究プログラム(PPDAC)を示したページを設定している。(5年P182-183)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「平均」の単元では、日常生活の具体的な場面から「ならず」内容を扱い、導入を図っている。(5年P124)</p> <p>イ 統計単元では、統計的問題解決を重視した場面設定や内容を取り扱っている。(3年P48、5年P171等)</p> <p>ウ 各単元で、身近なものや身の回りの具体物を使って導入している。  「整数と小数」スカイツリー(5年P10)、「体積」ようかん(5年P51)  「整数の性質」特急電車の号数(5年P97)  「角柱と円柱の体積」チョコレートの大きさ比べ(6年P81)  「比例と反比例」紙のおよその枚数を数えずに求める(6年P169)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 幼保小連携のページで、友達と関わる活動を多く盛り込んでいる。</p> <p>イ 5、6年生に「中学校の数学ではこんなことを学ぶよ」のコーナー、6年生に「数学の世界へ」が掲載されている。(5年P267、6年P221、P232-)</p> <p>ウ 国際理解、人権教育、伝統文化、防災教育、オリンピック・パラリンピックに関わる題材を取り上げている。児童の絵もジェンダーに配慮している。(3年P108、4年P179、6年P218等)</p> <p>エ カラーユニバーサルデザインを意識した紙面になっている。(5年P205等)</p> <p>オ 各学年とも1冊の教科書になっている。</p>

算数	算数	発行者番号 11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ 小学校 算数
----	----	----------	-------	---------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「できるようになったこと」でたしかめ、「まなびをいかそう」で発展問題と、単元末の練習問題が2段階に分けて掲載されている。(3年下P34-35、4年下P56-57等)</p> <p>イ 教科書の巻頭部分やプログラミング的思考を養うページなどでQRコードから、学習に役立つ資料が掲載されたHPや動画へリンクできるようになっている。(3年上P99、6年P83等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「深めたいな」から、次のページの「深めよう」へつなげて、身の回りで算数が使えるようにしている。(3年上P79-81)</p> <p>イ 「今の自分を知ろう！」で、パフォーマンス評価の形で自分の力を確認するようになっている。(4年下P144-146)</p> <p>ウ 「考えるノート」と「まとめるノート」の2パターンが提示してある。(2年上P31 下P12-13)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 整数、小数、分数のかけ算やわり算の後に、「倍の計算」について特設単元を設定している。(3年上P60-61 4年下P78-79)</p> <p>イ 各学年の「データの活用」領域の学習を「整理」「活用」に分けて、構成している。(6年P185-189とP199-205等)</p> <p>ウ 「長さ」「面積」「体積」の概念の基礎を養う学習について、1つの単元にまとめている。(1年下P23-31)</p> <p>エ 「かけ算(1)(2)(3)」が2学期に連続で設定されている。(2年下P4-49)</p> <p>オ 「テープ作り」として、倍の学習が設定されている。(3年上P60-61)</p> <p>カ 「単位量あたりの大きさ」を1学期に2単元に分けて扱っている。(5年上P50-63、P98-107)</p> <p>キ プログラミングに関わる内容を全学年で扱っている。(1年下P70-71等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 思考力、表現力、判断力を3つの学びの力として示している。(2年生以上の各学年の巻頭)</p> <p>イ 「算数で見つきたい考え方モンスター」で、9つの見方・考え方を2年生以上で示している。(2年生以上の各学年の巻頭)</p> <p>ウ 4マス関係表などの演算決定に関わる図を、各学年の学習内容と関連させて、系統的に取り扱われている。(4年下P80-81等)</p> <p>エ 1つの課題が終わったとき、「つなげたいな」のつぶやきにより、次の課題へのつなぎとなるよう配慮している。(3年下P6-7等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「時こくと時間」では、生活の中から問いを生む場面から導入している。(2年上P18)</p> <p>イ イラスト形式の「?を発見」で生まれた疑問から単元の導入を図っている。(3年上P62、4年上P38等)</p> <p>ウ 各単元で、身近なものを使って導入している。 「単位量あたりの大きさ」リニアモーターカー(5年上P98) 「比例と反比例」紙の枚数を10枚の重さから求める(6年P160)</p> <p>エ 身の回りの建物や事象などの写真が、1年生から5年生の巻頭に掲載されている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 6年生では、「中学校へのかげ橋」という別冊をつくり、これまでの学習の復習と中学校の学習の一部に触れることができるようにしている。</p> <p>イ ユニバーサルデザインに対応している。(2年上P35、6年P13等)</p> <p>ウ 「環境」「国際理解」「安全・防犯・防災」「伝統文化・道徳教育」に関連した内容が実感できるようになっている。(4年上P117、5年上P61)</p> <p>エ 横に広い教科書(AB版)となっている。6年生以外は、上下巻分冊になっている。</p>

算数	算数	発行者番号 17	略称 教出	書名 小学算数
----	----	----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元のまとめで知識の振り返り、技能の確かめを設定している。(2年上P50等)</p> <p>イ 計算にかかわる単元では、練習問題で基本問題と適用問題を色分けしている。(2年上P43等)</p> <p>ウ 基礎基本が維持できるように、年間に数回、「ふくしゅう」ページを設けている。(全学年、5年P43, 57, 96, 137, 167, 197, 239)</p> <p>エ 「学びの手引き」で、写真等で丁寧に算数用具の使い方を解説したり、「まなびリンク」で、シミュレーションや動画を使ったりして学べるようになっている。(4年下P158-159、5年P189-199等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学年末で、その学年で学習したことを総合的に活用して取り組める問題を設定している。(5年P250-253等)</p> <p>イ 単元末で身の回りにおける算数の活用場面を取り上げている。(5年P154等)</p> <p>ウ 巻末にある「広がる算数」で、探究的に取り組める内容を用意している。(5年P278-284等)</p> <p>エ 巻末の「学びの手引き」の中に、「学びのマップ」として、前学年までの学習内容と数学的な見方がまとめている。(3年上P150-155等)</p> <p>オ 「学びの手引き」で、ノートの書き方や算数で使いたい考え方が示してある。(4年上P40-41等)</p> <p>カ 「ステップアップ算数」で、家庭学習のヒントを出している。(2年上P132等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「長さ」「面積」「体積」の概念の基礎を養う学習について1つの単元にまとめている。(1年P128-139)</p> <p>イ 図を使って考える「どんなしきになるかな」の単元を設定している。(1年P162)「時間」の単元を1学期から設定している。(1年P28) 減法では、「求残」と「求差」を別々の単元で構成している。(1年P57-71)</p> <p>ウ 「分数」から「小数」の順に単元が配列してある。(3年下P36-、P66-)</p> <p>エ 「小数のかけ算」と「小数のわり算」の間に「合同と三角形、四角形」を設定している。(5年P44-96)</p> <p>オ 「分数と整数のかけ算、わり算」と「分数のかけ算」「分数のわり算」の間に「対称な図形」を扱っている。(6年P22-79)</p> <p>カ 「データの見方」を1つの単元として扱っている。(6年P82-99)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 多様な考えのつなげ方、広げ方、深め方を示唆する問いを示している。(2年上P41、3年上P15、4年上P91等)</p> <p>イ 数量の関係を図に表す活動を重視している。(3年上P35、4年下P73等)</p> <p>ウ 3年生「わり算」は、「包含除」から「等分除」の順に扱っている。</p> <p>エ 統計的な問題解決の方法を意識した構成になっている。(6年P94-等)</p> <p>オ 「なるほど！」で学習の振り返りができるようにしている。(4年上P27等)</p> <p>カ 単元のまとめを4コマ漫画で振り返りできるようにしている。(4年上P42等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「たし算とひき算」の中に筆算も位置づけられている。(2年上P22-47)</p> <p>イ 各単元で、身近なものを使って導入している。  「整数と小数」東京オリンピック(5年P10)  「合同な図形」ステンドグラス(5年P58)  「データの見方」読書チャンピオン(6年P82)  「円の面積」半径10cmの円の面積を実際に求める(6年P100-103)  「並べ方」ドレミを使ったメロディーづくり(6年P180)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア スタートカリキュラムに対応した内容になっている。(1年P1-9)</p> <p>イ 「開け!算数ワールド」で中学校数学への入り口を示している。(6年P216-230)</p> <p>ウ 独自開発のプログラミングツールを使っている。(5年P228-229)</p> <p>エ 環境、防災、福祉、オリンピック・パラリンピック、情報を扱っている。(4年下P126等)</p> <p>オ 1、5、6年生は学年1冊、2、3、4年生は上下巻になっている。</p>

算数	算数	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 わくわく 算数
----	----	----------	--------	------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元末「学びのまとめ」が、「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」の学びを深める3ステップ構成になっている。(4年上P36-37等)</p> <p>イ より多くの問題に挑戦できるよう、「もっと練習」ページを巻末に設定している。2段階の問題設定で習熟度別学習にも対応している。(3年下P7→P120等)</p> <p>ウ 教科書紙面のQRコードより、学習の参考になるコンテンツが閲覧できるようになっている。(3年下P4、6年P10等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 既習事項から新たな学びに向かう姿勢を育む「自分の力で」のコーナーが設けられた単元がある。(2年下P31等)</p> <p>イ 復習、学年の総復習のページで、つまずきの多い学習内容を意識して取り組めるように、☆マークを提示している。(1年P109等)</p> <p>ウ 「わくわく算数ノート」では、考えがよくわかる算数ノートの書き方を例示している。(2年上P8-9等、2年以上巻頭)</p> <p>エ 「学びのサポート」の中に、前学年までの学習内容とそれぞれの単元にかかわる既習内容をまとめている。(2年生以上巻末)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1年生「長さ」「面積」「体積」の概念の基礎を養う学習を「大きさを比べ(1)(2)」とし、2つの単元で取り扱っている。(1年P82-87、158-159)</p> <p>イ 2年生では、2学期に「かけ算(1)(2)」、3学期に「九九のきまり」に分けて単元を設定している。(2年下P2-41、70-79)</p> <p>ウ 3年生「何倍でしょう」では、割合の3つの用法を1つにまとめた単元を設定している。(3年下P14-19)</p> <p>エ 4年生「折れ線グラフ」を、第2単元に設定している。(4年上P26-37)</p> <p>オ 5年生では、「割合」にかかわる学習内容を学期ごとに設定している。(5年P34-51、52-73、172-183、200-209)</p> <p>カ 「データの活用」領域の単元を各学年とも1学期に設定している。(1年P62-63等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「算数資料集」に、わかりやすい説明のしかた、算数でよく使う考え方についての説明を示している。(2年生以上の巻末)</p> <p>イ 関係図などの演算決定に関わる図を各学年の学習内容と関連させて、系統的に取り扱っている。途中段階の図や表も積極的に掲載している。(4年下P70-71)</p> <p>ウ 「データの活用」領域の単元は、統計的な問題解決のプロセス(PPDAC)に沿って学習を進められる構成になっている。(3年上P74-89等)</p> <p>エ 図や表を使って考えるなど、思考力をはぐくむ内容を扱った単元についても、「学びのめばえ」「めあて」を設定してある。(3年上P34-35)</p> <p>オ 単位時間ごとに、「めあて」「まとめ」「適用題」を示している。(2年上P118-119、5年P86-87等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 1年生「ものとひとつのかず」の単元で、図をかいて考える内容を取り扱っている。(1年P124-126)</p> <p>イ 各単元で、身近なものを使って観察したり、調べたりすることから導入している。 「体積」たく配便での荷物大きさを調べる(5年P16) 「比例」レンガと植木ばちの比較(5年P28)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア スタートカリキュラムに対応し、作業の様子を示す写真を多用したり、書き込みやすいように特別な用紙を使用したりしている。(1年P2-17)</p> <p>イ キャリア教育の一環として、6年学年末に様々な職業とつながることが実感できる内容が取り扱われている。(6年P234-248)</p> <p>ウ 「わくわく算数ひろば」で、プログラミング教育にかかわる内容を扱っている。(算数ラボ5年P236-237、6年P182、183、他学年 QRコードの上にPマーク、1年P127、2年上P50、3年上P39等)</p> <p>エ 1、5、6年生は学年1冊、2、3、4年生は上下巻になっている。</p>

算数	算数	発行者番号 116	略称 日文	書名 小学算数
----	----	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元末の「たしかめポイント」で、単元で学んだことを確かめるページを設定している。(2年上P54、6年P56等)</p> <p>イ 「算数マイトライ」に本編と同レベルの補充問題を掲載している。(2年以上巻末)</p> <p>ウ 単元末のページ「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」でつまずきやすい内容を取り上げている。(4年上P85、5年下P30等)</p> <p>エ Webページから活用できるデジタルコンテンツがある。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「算数マイトライ」に、「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」として、応用的、発展的な問題を掲載している。(3年下P118-、5年上P136-137)</p> <p>イ 2年生以上の「算数ノートをつくろう」で、考えた過程や友達の考えなどをまとめるノート見本を掲載している。(3年上P4-5等)</p> <p>ウ 知識及び技能を習得し、活用探究するための手がかりを「カギマーク」で示している。(2年上P110、4年下P44、6年P158等)</p> <p>エ 「〇年生までに学習したこと」に、当該学年の学習内容にかかわる既習事項を整理している。(2年生以上巻末)</p> <p>オ 「つなげる算数」「Hello!Math」で、学習したことを生活の場面に生かすことができるようになっている。(3年下P60、4年上P66等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1年生「長さ」「面積」「体積」の概念の基礎を養う学習について2つの単元で取り扱っている。(1年上P86-90、下P38-43)</p> <p>イ 3年生の「倍」に関わる学習内容は、「わり算」の単元の中で扱われている。(3年上P34)</p> <p>ウ 4年生「わり算」の中の小単元として「かんたんな割合」を扱っている。(4年下P22-24)</p> <p>エ 5年生では、「割合」と「帯グラフと円グラフ」の間に図形を2単元入れた構成になっている。(5年下P42-110)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「学び方ガイド」「算数で使いたいことば・考え方」の付録があり、問題解決過程の学び方4ステップや自分の考えを表現するポイントを示している。(2年生以上)</p> <p>イ 「自分で みんなで」の折り込みを開くと主体的・対話的な学習になる板書や学習の流れが構成的に示されている。(5年上P30-33等)</p> <p>ウ 「データの活用」領域に関わる学習内容が、好奇心を喚起する題材を取り上げて設定している。(2年上P10、6年P184-185等)</p> <p>エ 「よみとろう、あらわそう」では、テープ図や数直線のみ方・かき方を系統的に整理して図を使いこなせるようにしている。(2年上P144等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「活用」「算数アドベンチャー」で、他教科や日常生活と結び付けた総合的な算数の問題を扱っている。(4年下P130-133、5年下P128-133等)</p> <p>イ 「ひょうとグラフ」では、導入から、2項目の情報が読み取れる問題を扱っている。(2年上P10-12)</p> <p>ウ 「平均」単元では、「ならず」という意味の説明から入っている。(5年下P6)</p> <p>エ 各単元で、身近なものを使って観察したり、調べたりすることから導入している。 「整数と小数のしくみ」富士山、マラソン (5年上P10-11) 「正多角形と円」六角がえしで面の変化を楽しむ (5年下P56) 「場合の数」世界のみんなと手をつないだ並び方 (6年P88-89)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 保幼で行ってきた活動を振り返りながら、小学校の算数の学習内容へとつなげるページが設定されている。(1年上絵P1-5)</p> <p>イ 小中連携を意識した単元「マテマランドを探検しよう!」「もうすぐ中学生」を設定している。(6年P202-222、233-240)</p> <p>ウ 「道徳」「防災」「伝統・文化」に関連する話題が取り上げられている。(2年上P82、6年P135、194等)</p> <p>エ カラーユニバーサルデザインなど、学習上の配慮がなされている。(3年下P18、6年P154他)</p> <p>オ 1年生から5年生は上下巻、6年生は学年1冊になっている。</p>



理科

理科	理科	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい理科
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学んだことを使おう」は、既習内容（他教科を含む）と関連付けて考えるヒントになり知識がつながり深く理解することができる。（4年P74-75、6年P61等）</p> <p>イ 「まとめ」が簡潔で、大切な言葉も太字で強調されている。文章は単語の途中ではなく、文節で改行して読みやすく示している。（5年P102、6年P116等）</p> <p>ウ 巻末資料として、「かく・話す、観察、実験、深める」という点について理科の調べ方を掲載し、ノートの使い方、用具の使い方等をわかりやすくまとめている。（3年P159、6年P201等）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「理科のミカタ」を掲載し、問題解決の過程の各場面で、各学年に応じた「理科の見方・考え方」について示している。（5年P66、6年P137等）</p> <p>イ 単元のあとの振り返りの視点が、「学ぶ前の私」と「学んだ後の私」を示し、同じ問いについて考えることによって、分かるようになった自分を実感できるようになっている。（5年P97とP117、6年P33とP53が対応）</p> <p>ウ 「レベルアップ理科の力」を設定して、次のページに各学年で目指す問題解決の場面での対話の具体例が掲載されている。対話のねらいやポイントが分かり対話的な学びが充実し、他者と関わり合いながら問題解決できるようになっている。（3年P117、5年P59等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 目次は裏表紙に配置して、各学年巻頭に内容の区分によって単元を示し、前学年で学習した内容とのつながりを明記している。（各学年P2-3）</p> <p>イ 巻末の「学んだことを振り返ろう！」では、1年間で学習したことの要点を載せて、振り返りができるようにしている。（各学年巻末）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 問題解決の過程をつないだ「学びのライン」によって、「問題、予想しよう、計画しよう、実験・観察、結果、考えよう、まとめ」の流れを示している。（全学年P4-5、4年P169-172等）</p> <p>イ 教科書の大判化により、学習の流れを示し、写真、図表、資料を豊富に掲載し、児童の思考を助ける工夫をしている。（4年P76-77、5年P22-27等）</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 3年「チョウを育てよう」では、3分の2の紙面や3分の1の紙面にたまごから成虫までの写真や解説等を載せ、一連の変化を分かりやすく掲載している。（3年P27-31）</p> <p>イ 4年「雨水のゆくえと地面のようす」（新単元、P54）、「自然のなかの水のすがた」（P100）、「水のすがたと温度」（P164）の順で段階的に扱うことで、生活の水のすがたから徐々に科学的にとらえ、理解できるように扱っている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 生命尊重や環境保全にかかわる内容にはマークを付けたり、学んだことを使って自らができることを考える場面を設けたりして、持続可能な社会への意識付けを図っている。（3年P79、6年P199等）</p> <p>イ 「インターネット」のマークが掲載されており、デジタルコンテンツで映像や画像から簡単に学ぶことができる。（4年P212、6年P220等）</p> <p>ウ 読みやすい書体を採用して、特に単元導入では総ルビにするなどの配慮をしている。（全体、6年P12-13等）</p>

理科	理科	発行者番号 4	略称 大日本	書名 たのしい理科
----	----	---------	--------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 問題と結論がそれぞれ色わけされ、分かりやすく示されている。(5年P72、6年P118)</p> <p>イ 各単元の最後に「たしかめよう」を掲載し、知識・技能の定着を図っている。(3年P42、5年P138等)</p> <p>ウ 各実験・観察の結果の場面で、手書き風のワークシート・ノートの書き方例が掲載されている。(4年P60、6年P84等)</p> <p>エ 各学年の巻末に豊富な資料がついており、理科室のきまり、器具の使い方、各単元のまとめ等について紹介されており、学習に必要な知識・技能について整理されている。(5年P172-187、6年P204-219等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「理科の学び方」が掲載されている。「考えよう」の場面で自分が立てた予想を振り返りながら、結果を整理して考察することなどが示されている。(各学年P2-3)</p> <p>イ 「作ってみよう」や「りかのたまてばこ」には多くの例示があり、学習内容と生活の関連を重視している。巻末には「各学年のまとめ」「チャレンジ問題」が掲載され、学びの活用を意識している。(3年P175、6年P216-219、220-221等)</p> <p>ウ 各問題解決の場面の「予想」「考察」では、児童の思考や対話の例が掲載されている。(5年P8、P10、6年P83-84等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 理科室の使用が重ならないような各学年の単元構成となっている。</p> <p>イ 6年では、内容の区分を超えて、環境をテーマに1年間の学習を進めていくよう紹介がなされているとともに、最初の単元と最終の単元との関連が図られている。(6年P8-9)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各学年における「理科の学び方」が分かりやすく簡潔に示されており、また、学習のサイクルを示して学習のつながりを考慮している。(各学年P2-3)</p> <p>イ 各単元末には、学んだことを生活場面にあてはめて考え、活用する力の育成をねらった「学んだことを生かそう」が配置されている。(3年P117、4年P43等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 児童自らが学習問題に気付くことができるように全面写真でとりあげたり、事象を比較したりする場面を設定している。(4年P100-101、6年P184-185等)</p> <p>イ 4年「雨水のゆくえ」では、流れる水の行方、土のつぶの大きさと水のしみこみ、空気中に出ていく水の3つの学習内容を1つの単元にまとめている。(4年P80-99)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「りかのたまてばこ」で、自然災害やそれに対する防災対策についての資料が豊富に掲載され、自らの行動についても考えるように促す記述がなされている。(5年P105、6年P143-145) また、話題に合わせて間伐材を使用した紙が使われている。(6年P193-194)</p> <p>イ 英文を掲載し、外国語活動・外国語科との関連を図っている。(5・6年表紙裏) また、道徳教育との関連を意識した内容となっている。(5年P167、6年P203等)</p> <p>ウ 3年～6年で、プログラミング的思考の育成につながる体験ができる内容を掲載している。(3年P163、4年P151等)</p>

理科	理科	発行者番号 11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ小学校理科
----	----	----------	-------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 巻頭ページに各学年で主に育てたい問題解決の力や理科の考え方が示されている。(各学年P4-5) また、各単元の冒頭で、その単元で働かせる「見方・考え方」を明示し、その単元でつけたい「資質・能力」について3つに絞って示している。(3年P7、4年P7等)</p> <p>イ 「大事な言葉」を欄外に目立つように示し、文中にも太字にして強調している。(4年P48、5年P27等)</p> <p>ウ 各単元でノートの記入例が掲載されている。紙面とノート例のレイアウトもそろえている。(5年P21、6年P14等)</p> <p>エ 巻末に、各道具の使い方について掲載しており、紙面にあるQRコードをつかうと、動画でも理解することができる。(3年P175、6年P219等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各単元で、問題解決の流れを意識できるようにページの左にバーで明示し、各ページの下にも、そのページが問題解決の流れのどの部分に当たるかを示している。(3年P8-15、4年P18-20等)</p> <p>イ それぞれの学習問題の前に「問題を見つけよう」を示し、話し合いや活動を通じて、一人一人が問題を見つけられようとしている。</p> <p>ウ 「やってみよう」や「資料」によって、学びを深め、発展的な内容や生活とのつながりを意識した内容を掲載している。 (4年P52-53、6年P145等)</p> <p>エ 巻末の「考えよう調べよう」では、話型を示しながら、伝え合いの方法や調べる方法などを示している。(4年P191、5年P175等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 3年「ゴムの力と風の力」では、「風のはたらき」と「ゴムのはたらき」の2単元に分けている。(3年P104-113、P114-123)</p> <p>イ その学年で特に育成したい資質・能力の比重を多くするとともに、その資質・能力を意識した単元を各学年のはじめに構成している。5年では、はじめの単元で「ふりこ」を取り扱い、条件制御の考え方を育成することを意識した構成となっている。(5年P6-17)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「問題(予想・計画)」「観察・実験(結果・考察)」「わかったこと」といった学び方の流れを視覚的に分かりやすく示し、観察・実験の結果から言えることを分かったこととして明確に示し、新たな知識や解説と分けて示している。(5年P11-14、6年P15-18等)</p> <p>イ 学習過程や観察・実験の準備物などにチェックボックスを設け、確認しながら学習できるようにしている。(3年P26-28、6年P8-10等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 3年「風のはたらき」について、風車によって持ち上がるおもりの数で比べている。(3年P104-113)</p> <p>イ 6年「電気と私たちの生活」では、プログラム、センサーを活用した活動が掲載され、紙面のQRコードでページを開き、実際にプログラムを作る活動ができる。(6年P192-197)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 持続可能な社会について学習する場面(6年P208-210)、ICT機器の有効な利用場面、インターネットの活用や注意点等を掲載している。 (5年P179、6年P217)</p> <p>イ 表紙や裏表紙に科学者の詩や言葉を掲載している。資料等で働く人達の姿を掲載し、キャリア教育への対応がなされている。(各学年裏表紙)</p>

理科	理科	発行者番号 17	略称 教出	書名 未来をひらく小学理科
----	----	----------	-------	---------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 前年度の学習内容や語句について「〇年で学んだこと」のページが巻頭にあり、前学年の振り返りができる。(4-6年P3)</p> <p>イ 「学習の進め方」と「ノートのととり方」を対応させて、見開きで示してあり、問題解決の流れに沿って子どもの思考を整理できるようにしている。(3年P10-11、4年P8-9等)</p> <p>ウ 単元ごとの「たしかめ」で、基本的事項の定着を確認することができる。(3年P37、4年P111等)</p> <p>エ 各学年の巻末に「〇年で学んだこと」があり、振り返りを行うことができる。(4年P232、5年P220等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 問題解決の学習によって獲得した知を別のものにあてはめて考えたり、身のまわりの事象に応用して考えたりできる「学びを広げよう」を設けている。(5年P201、6年P113等)</p> <p>イ 単元の冒頭に学習のきっかけとなる「〇〇さんの気付き、疑問」が示され、子どもの気づきによって問題が見いだされるよう、生活経験に即した課題提示となっている。(3年P144、6年P121等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 前の学習で得られた理解や技能を次の学習で活用できるように単元の配列が行われている。また、「学習のつながり」で学習の系統性を示し、「思い出そう」で既習内容を意識した学習を進められるようにしている。(3年P54、6年P28等)</p> <p>イ A区分では指導する時期に明確な結果が得やすい時期に配列し、B区分では動植物の成長の違いや気象条件の特性等を考慮して配列している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各単元の「予想しよう」「計画しよう」で、結果を予想する児童の姿、予想と結果の一致・不一致を考える児童の姿を示し、見通しを持たせるようにしている。(4年P40、6年P106等)</p> <p>イ 単元の導入で事象提示を受けて問題を見出す活動として「見つけよう」を設定し、共通体験や作業で主体的に問題づくりに取り組めるようにしている。(4年P39、5年P103)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 4年「とじこめた水と空気」では、閉じ込めた空気と水に力を加えたときの体積変化を同時に比較している。(4年P114-116)</p> <p>イ 5年「植物の発芽や成長」では、発芽には水が必要かどうかを調べてから、水の他に何が必要かを考えるという流れになっている。(5年P26-51)</p> <p>ウ 6年「人や他の動物の体」では、実物大の見開きイラストを使って、自分の臓器の位置を確認できる。(6年P50-53)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 天気、川、土地などの学習で小単元を設け、自然災害とその対策を扱い、防災や減災の取り組みを理解できるようにしている。6年では「地震や火山と災害」という小単元を7ページにわたって組み、津波に関する資料も扱っている。(6年P148-P155)</p> <p>イ 国語科で学習した言葉の学習を活用するなど、他教科の学習との関連付けを意識した紙面構成となっている。(3年P9、4年P23等)</p> <p>ウ 各学年の裏表紙に「理科の安全の手引き」が示され、いつでも安全が意識できるような配慮がなされている。(各学年裏表紙)</p>

理科	理科	発行者番号 26	略称 信教	書名 楽しい理科
----	----	----------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 的確にまとめる力を育成するために、見本となる図のかき表し方やまとめ方について、丁寧に提示されている。(3年P95、5年P120-121等)</p> <p>イ 導入ページに？マークを表示し、「話し合い活動」「体験活動」を設定。単元の主題材に直接触れるなどして、気づいたことや疑問に思ったこと、既習事項や既有経験を想起して話し合う活動を設定している。(4年P121、6年P137等)</p> <p>ウ 単元全体にかかわる学習問題を設定し「しらべること」で表している。(4年P121、5年P33等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 気象、人体、自然災害など直接観察することが難しい単元などでは、写真、絵図、イラストなどを取り入れている。(5年P68-70、6年P91等)</p> <p>イ 「やってみよう」では、学習の中での観察・実験とは別の方法によって自然の事物・現象を調べたり考察を深めたりして、多様で発展的な追究の方法を体験できるようにしている。(5年P107、6年P38-39等)</p> <p>ウ 単元はじめの見開きページでは、季節の移ろいなどの自然の変化、地域の特色ある自然や事物・現象などを、写真や挿絵などで効果的に示している。(4年P8-9、6年P88-89等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 季節の特徴や生物の生育状況、学校行事の時期などを考慮した単元構成で、適時期に活動が行えるようにしている。(3年P30-31、P50-51、P78-79等)</p> <p>イ これから学習する単元に関連する既習事項がある場合は「思い出そう」のマークを示し、関連する学年、単元名、写真やイラスト、学習事項を端的に示している。(3年P58、5年P42等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「理科の学習の進め方」を全学年の巻頭ページに掲載し、学習の流れをマークで表示して、見通しをもって問題解決の過程をふめるようになっている。結果をまとめる際に、結果からいえること、いえないことを考えるよう具体的に示している。(各学年P4-5)</p> <p>イ 各単元の終わりに「まとめよう」を示し、各単元の学びを整理し、児童が学びを振り返ることができるようにしている。(4年P103、5年P47等)</p> <p>ウ 学年の発達段階に応じて理科用語を使いながら、図やグラフ・表などを用いて学習をまとめることができるような記録の例を示している。(4年P92、5年P147等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「やってみよう」「しらべてみよう」「しりょう」「はってん」の項目を設け、子どもたちの追究意識や意欲が持続的に高められるようにしてある。「しりょう」のページが多く設けてあり、読んだり調べたりすることで知識・理解を広げられるようにしている。(3年P49、6年P80等)</p> <p>イ 興味・関心をもってより詳しく丁寧に調べたり、描いたりできるよう、ダイナミックなイラストや手描きで描いたスケッチを多く使っている。(3年P74-75、5年P36-37等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「生命・地球」、「物質・エネルギー」領域などで、環境とのかかわりが意識できるように単元を構成している。(6年P62-75、P172-180)</p> <p>イ より多くの人に必要な情報が伝わるように、カラーユニバーサルデザインに配慮している。(3年P145、6年P142等)</p>

理科	理科	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 わくわく理科
----	----	----------	--------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 問題に対するまとめとして、結果から言えることが箇条書きで簡潔に書いてある。(3年P13、4年P22等)</p> <p>イ 巻末に豊富な資料がついており、調べ方や表し方、器具の使い方、ものづくりについて紹介されており、技能が分かりやすく整理されている。「理科につながる算数のまど」では、学習に必要な算数科の学習内容について丁寧に扱われている。(4年P187-199、5年P173-191等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単元の最初には、見開き2ページにわたり写真が使われており、理科への関心が高まるようになっている。(5年P6-7、6年P8-9等)</p> <p>イ 問題解決の流れが見える化できるように、問題解決のステップがフラッグ型のマークの中に書かれ、線でつながれており、児童が見通しをもって学習に取り組めるようになっている。(3年P44-47、4年P34-39等)</p> <p>ウ まとめあとの、「もっと知りたい」というステップを設定し、児童が次の新しい問いを見出せるようにしてあり、深い学びへ向かう力が育つようになっている。(4年P90、6年P178等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 単元のはじめでは、「思い出してみよう」で、既習内容を使ったり、関係づけて扱ったりすることができるようになっている。(4年P18-25、6年P46-65)</p> <p>イ 「メダカのたんじょう」「ヒトのたんじょう」では、同学年で内容を比較させるため単元を続けて配列している。(5年P30-41、P42-51)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「問題をつかもうー問題ー予想と計画ー観察・実験ー結果ー結果から考えようーまとめーもっと知りたい」という一連の流れをフラッグ型のマークの中に書き、わかりやすくまとめられている。また、問題と結果や考察がページをめくらないと見えないように配慮されている。(4年P34-39、6年P176-178等)</p> <p>イ 単元導入での「はじめに考えてみよう？」と同じ問いかけを単元末に「もう一度考えてみよう！」として入れ、学習の終わりに自己評価・相互評価ができるようになっている。(5年P11とP27、6年P8とP21等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 全学年で「これまでの学習をつなげよう」という小単元が配置されていて、それぞれの単元で学習した内容のつながりを意識できるようになっている。(3年P138、4年P178-179等)</p> <p>イ 各単元末に「まとめノート」として手書き風を書いてあるコーナーがあり、児童のまとめの参考にしやすい。「たしかめよう」では学習内容の定着が図られていたり、「活用しよう」では身の回りの事象を学習したことを活用して考えたりすることで、理科の有用性が感じられる。(4年P41-42、5年P25-27等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 6年「発電と電気の利用」の単元では、プログラミングを体験できるコーナーが設けられている。巻末付録のシートとシールを使ったり、QRコードから読み取れるシミュレーターを使ったりして学習できるようになっている。(6年P180-183)</p> <p>イ 授業の予習・復習や自主的な学習が適した箇所にQRコードがたくさん配置されていて、家庭学習や自主学習の際に使えるようになっている。(3年P17、4年P21等)</p>



生活

生活	生活	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい生活
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 活動の約束・衛生面などについて右縦に写真・挿絵を提示している。(上P17、43、下P5、27等)</p> <p>イ 「がっこうせいかつすたあと」で、入学当初の学校生活における集団でのかかわり方、学習の仕方、挨拶、机の中の整頓の仕方など、生活上必要なことを写真や絵、吹き出しで具体的に示している。(上P1-13)</p> <p>ウ 「べんりてちょう」は、大きな絵や写真や説明があり、生活習慣・学習技能・学び方の習得につながる。(上P115-122、下P107-128)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 上巻では、具体物を使った振り返り活動を通して実現する深い学びの例を掲載している。下巻では、対話を通して実現する深い学びの過程を示した「学びをふかめる」を掲載している。(上P21、52、下P14-15、52-53等)</p> <p>イ 「学習の流れ」を見える化した授業のユニバーサルデザインを提案している。(上P52、88、下P26、86等)</p> <p>ウ 自分で調べる習慣化のために「ポケットずかん」は、切り離して持ち運びできるようにしている。(上巻末)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 植物の成長や振り返りが写真で見比べることができるパノラマページがある。(上P28-32)</p> <p>イ 「あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう」は、幼児期の教育との接続となるような幼小交流活動が充実している。(上P106-107)</p> <p>ウ 学びのプロセスが挿絵や吹き出しで下段に提示してあり、この学習で「何ができるようになるか」がイメージできる。(下P28-29、38-39等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学びが深まっていく観察の仕方をワークシートで例示してある。(上P34-35、下P15、27等)</p> <p>イ 紙面右端に他教科の学習成果を生かすことが効果的な活動例を掲載し、他教科とのつながりが見え、カリキュラムデザインに役立つ。(下P15、31、53)</p> <p>ウ 節気・節句や季節の行事をイラストや写真で紹介し、季節に沿った流れになっている。(下P7、45、67等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「あしたへジャンプ」は、自分の成長を振り返りお世話になった人々への感謝の気持ちを伝えるとともに、未来の自分へに向けた手紙を書くことでキャリア教育につながる単元になっている。(下P95-103)</p> <p>イ 3年生からの社会科・理科・総合的な学習の時間につながるような学習活動を設けている。(下P42、73、77等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 多様な児童や、地域の人との関わりを写真や挿絵で示してある。(上P3、6、下P3、6等)</p> <p>イ 子ども110番、避難場所、津波避難ビルなど、安全教育・防災教育に関連した看板などを多く取り上げている。(上P23、25、下P8、70等)</p> <p>ウ 案内板の点字、多機能トイレ、点字ブロック、マタニティマークなど町の中にあるユニバーサルデザインを取り上げ、住みよい町づくりの工夫について取り上げている。(上P23、44、下P63、70等)</p>

生活	生活	発行者番号 4	略称 大日本	書名 たのしいせいかつ
----	----	---------	--------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 言語活動の基礎となる学習規律について「はなしかためいじん」「ききかためいじん」として右端に示している。(上P15)</p> <p>イ 活動に関連して、気付きがより深まり、広がるような情報を「せいかつことば」「きらきらことば」として右端コラムに適宜掲載している。(上P7、23、下P7、41等)</p> <p>ウ 校外活動で安全に気を付けて活動できるように、「やくそく」を示している。(上P29、下P23、57等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 上下巻末に「がくしゅうどうぐばこ」を設け、資料や図鑑として使えるように工夫している。(上P104-129、下P106-137)</p> <p>イ いろいろなキャラクターが、「こうするといいいよ」といった活動のヒントをつぶやいている。(上P7、10、下P5、15等)</p> <p>ウ 見る・さわるなど子どもが五感を使って、対象に働きかけながら、学習活動を引き出す工夫がある。(上表紙、P16、下P62、65等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 入学を意識して上の巻頭は、無理なく学校生活を始められるよう絵本のイメージで表現されている。(上P2-5)</p> <p>イ ページ上部の風船に活動目標を示し、活動の見通しを持てるようにしている。(上P6、14、下P6、8等)</p> <p>ウ 「あな」からのぞいた子どもの視点を提示し、活動を想像したり、考えたりする時間の工夫がある。(上P3、8、下P13、29等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「地図を作ろう」では、床地図の表現の仕方を取り入れ、3年社会科につながる工夫をしている。(下P116-117)</p> <p>イ 折込ページや透明シート、白黒表現などにより、活動イメージを膨らませるための工夫をしている。(上P8、62-63、下P30-31等)</p> <p>ウ 栽培活動では、上巻は、いろいろな種類の花を育て、「くらべる」という視点で育て、下巻では、自分たちが育てた野菜を味わう活動を位置づけ、食について、考えることを意識するよう配慮している。(上P18-23等、下P17-19等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「わたしの町はっけん」では、単元末に「町のたからもっと広がれ」として地域に発信するためHPやポスターなどで伝える方法を紹介し、多様な活動のヒントになるように工夫している。(下P70-71)</p> <p>イ 「夜の長さってどのくらいかな？」では、1日24時間を意識して計画的にすごし、夜働く人にも気づくことができるように透明シートがついている。(下P112-113)</p> <p>ウ 「みらいにむかってはばたこう」では、単元の最後になりたい自分を考え、紹介しあう活動を取り入れ、キャリア教育を意識した構成になっている。(下P102-103)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 自分の身を守るために適切な行動ができるよう、キャラクターが具体的に示している。(上P5、27、下P15、74等)</p> <p>イ 生活科の活動と関連する用語を紹介している。また、日本の文化とともに海外の文化を紹介している。(下P134-137)</p>

生活	生活	発行者番号 11	略称 学図	書名 みんなとまなぶしよ うがっこう せいかつ
----	----	----------	-------	----------------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「学び方図かん」の中に、発達段階に応じて学び方が具体的に示されている。(上P114-121、下P104-119) イ イラストのつぶやきの言葉が、児童の思考を深めるヒントとなっている。(上P21-23、25、下P7、18等) ウ 発達段階に応じてワークシートの例示がある。教師のコメント例も提示してあり参考にするための工夫がある。(上P8-9、下P7、17等)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 単元の活動が自立を養うことをねらって、単元構成している。(上P17-18、下P38-39等) イ 「ものしりノート」に、自然物を使った遊びやおもちゃの作り方、公共物の使い方など活動をさらに広げる例や、多様な表現活動例が紹介されている。(上P31、46、66、下P12-15等) ウ 記録を重視し、記録を振り返る活動をすることで、自分の成長を自覚できるよう工夫されている。(上P34-37、下P68、52-53等)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 目次は、単元による季節ごとの構成がひと目でわかるように工夫されている。 イ 「ものしりノート」があり、その中で観察カードの書き方やお礼の手紙の書き方などが大きく具体的に説明しており、国語科と合科的に扱われている。(上P24、下P40、113)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 2段階の学びの構成で、問題解決能力がつくよう工夫している。(下P2-11、16-21) イ 単元の中で活動が連続するように、4つの段階に分けて提示して視覚化し、見通しと目的意識をもって取り組むことができる構成になっている。(上下 ページ左上) ウ 対話を通して、自分の考えを変容させていくとともに、他人を思いやる気持ちも大切にし、豊かな人間性を育むように構成している。(上P26、下P72、81等)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 図書館の活用を意識づけするよう工夫している。(下P26-27)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア ICT機器の取り扱いやマナーについて巻末に掲載しており、安全な使い方についても記載している。(下P117) イ 「安全のページ」というものがあり、交通安全のこと、防犯、防災のことについて書かれている。(上P122-124、下P120等) ウ 生活科学習への理解と協力を得るために、保護者に向けたメッセージと各単元のねらいを説明している。(上P1、裏表紙、下裏表紙)

生活	生活	発行者番号 17	略称 教出	書名 せいかつ
----	----	----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学びのポケット」では、ものの見方、考え方、言葉や道具の使い方、話し合いや発表の仕方などについて、具体的に説明している。 (上P127-136、下P117-136等)</p> <p>イ 育てる力が、サイコロで「6の力」であらわされ、めあてをわかりやすく示している。(上P16、20、下P10、12等)</p> <p>ウ めあてに対して深い学びへと導く「振り返り」を「まんぞくハシゴ」で設定している。(上P21、27、下P19、41等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ページ右縦の「ひんと(ヒント)」コラムで、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの、学習活動を繰り返し提示している。(上P19、33、下P13、29等)</p> <p>イ 頭の中を「見える化」する、子どもの活動や思いをつなげたり広げたりする思考ツールを取り入れた板書の例示がある。 (上P20、87、下P8、72等)</p> <p>ウ 「知りたい」を刺激する投げかけが、クイズや図鑑で提示してある。 (下P22-23)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 幼稚園教育要領に示された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を「新しいスタートカリキュラム」で提案している。 (上P8-13)</p> <p>イ 目次はないが、年間の活動の現在の学びの位置づけが、各単元の導入のページ下に提示してある。(上P14、30、下P24、46等)</p> <p>ウ 他教科との関連を大事にしており、学びのポケットに、どの教科と関連するのか、児童にも分かるようにマークで示している。 (上P127-136、下P117-136)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 想像力と創造力を磨く「もしも」のページがある。 (上P45、71、下P101、116等)</p> <p>イ 上下各巻末に、次の学年への見通しが、キャラクターと写真で振り返りながら、紹介してある。</p> <p>ウ QRコード「まなびリンク」やICT機器の活用など、新しい学び方を提案している。(上P34、45、下P50、128等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア インクルーシブ教育、ダイバーシティ教育、キャリア教育等、多様性を大切にした写真やイラストに配慮している。 (上P18-19、下P44、80-81等)</p> <p>イ 「できるかな」のコーナーで、道徳科との関連を位置付けている。 (上P23、67、下P65等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 保護者に対して生活科で「育てる力」が示してあり、QRコードでも紹介されている。(上P6、下表紙裏)</p> <p>イ 交通安全・防犯・防災への注意喚起、健康への配慮について紹介している。 「あんぜんなせいかつ」(上P28-29) 「おぼえてあんぜん」(上P134-135、下P134-135)</p>

生活	生活	発行者番号 26	略称 信教	書名 せいかつ
----	----	----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア すべて縦書き表記になっている。低学年用のマス目ワークシートや日記、作文、手紙などが紹介しており、国語科との関連を図りながら指導できるようになっている。(上P9、67、126)</p> <p>イ 自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面を設定している。(上P122-127、下P94-95、100-101等)</p> <p>ウ 子どもの願いや思いを表現豊かな写真やさし絵などで示し、学びの深まりや広がりにつながる活動を大切にしている。(上P34-37等、下P52-57等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 子どもとともに作る「くらし」を大切に、何度も読みたくなるような絵本のようにしている。</p> <p>イ 家庭生活から始まり、家庭生活で終わる単元の流れになっているので、学んだことを生活に生かしやすい。(上P4-13等)</p> <p>ウ 活動が具体的に想起できるような写真や絵が多く提示してある。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 地域に生まれ、地域に育つ子どもが、四季を通してその場所にかかわることを重視した内容構成となっている。(上P27-30、102-107、下P10-51、58-81等)</p> <p>イ 2年間を通じた小動物の飼育活動や花・野菜の栽培活動を通して、家族や地域の人との交流を深めるようにしている。(上P44-51、下P28-31等)</p> <p>ウ 図画工作科・音楽科などの他教科との関連した活動がわかるよう、実際の児童の作品や写真が紹介されている。(上P33-34、73等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 信濃地域の豊かな自然や日常的な生活事象を教材にして単元が構成されている。</p> <p>イ 直接体験を重視し、いつもの遊び場やさんぽ道などの単元を設け、ふるさとへの愛着が深められるような内容で構成されている。(上P26-31、下P8-15等)</p> <p>ウ 文章を読み進めることで、ストーリー性をもった活動展開が期待できるような内容となっている。(下P10-15等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 動・植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを体験できるように工夫している。(下P28-31)</p> <p>イ 伝統行事や節句にかかわる単元は、切り絵が使われている。(上P34-35、下P80-81等)</p> <p>ウ 「すすめすいすい号」は、友だちと協力して船を作り上げ、ダイナミックな活動が展開できるよう例が示されている。(下P52-57)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 教科書の内容と関連する植物や生き物の図鑑へのアクセスできるQRコードを巻頭に設けている。</p> <p>イ 「人にやさしい町」では、障がいのある人や乳幼児に配慮した誰もが暮らしやすい町にするための工夫が示されている。(下P25)</p>

生活	生活	発行者番号 38	略称 光村	書名 せいかつ
----	----	----------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 確かな力を身に付けることができるよう学習活動を「ホップ」で導入、「ステップ」で実践、「ジャンプ」で深まるという3段階で構成している。(上P14、単元名左上、下P6、単元名左上)</p> <p>イ 「！」で衛生面、安全面で気を付けることをわかりやすく示している。(上P33、51、下P39、61等)</p> <p>ウ 「ひろがるせいかつじてん」として、上下巻末に体験方法と表現方法を示している。(上P138-143、下P98-103)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア QRコード「広がる学び深まる学び」に季節の資料、交通安全など160点以上の写真・動画を収録している。(上P25、81、下P57、80等)</p> <p>イ すべての単元に「どうすれば、いいかな」のコーナーを設け、活動の視点を広げる手がかりとするとともに、「？」で、自分なりに考える楽しさを実感できるようにしている。(上P49、66、下P40、57等)</p> <p>ウ 「もっとやってみたい」で発展的に学習を続けたい児童の学習の手がかりを提示している。(上P44、56、下P46、72等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 上巻冒頭では、入学したばかりの児童が安心して小学校生活のスタートが切れるように、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目も踏まえ、スタートカリキュラムを設定している。(上P4-13)</p> <p>イ 上下巻末に「きせつのおくりもの」が設定され、上巻では草花や生き物、下巻では同じ町の風景が春夏秋冬で連続して掲載され、四季の変化を比較する手がかりになっている。(上P112-123、下P78-85)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 巻末のシールを利用して、自分の学びを振り返ることができ、1年間の学習全体も振り返ることができる。(上P145-147、下P105-107)</p> <p>イ 野菜や虫などの大きな写真が多く、吹き出しには活動のヒントとなることが書かれている。(上P30-31、下P20、36等)</p> <p>ウ 「もっともっとまちたんけん」の床地図や「小さな友だち」の生き物の観察は中学年以降の社会や理科へのつながりが意識された内容になっている。(下P36-47、64-77等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「あそんでためしてくふうして」は、身の回りにあるキャップや空き容器などを利用して繰り返し遊び、試行錯誤しながら、工夫して遊びや動くおもちゃを作ることができる単元になっている。(下P48-63)</p> <p>イ 「みんなのにこにこ大きくせん」は、「にこにこ」をキーワードとして単元が展開され、自分とのかかわりの中で家族のつながりを深めたり、家庭生活における自分の役割を意識したりするとともに、自分のよさに気付く単元になっている。(上P86-95)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 特別支援教育の観点や多様性への対応が配慮されている。</p> <p>イ 自分の身を守ったり、生活習慣、学習方法を身に付けたりする資料が収録してある。(上P138-139、下P98-99等)</p>

生活	生活	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 せいかつ
----	----	----------	--------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「かくしゅうずかん」の中で、調べ方や伝え方などについての例を示し、学び方が身につくようにしてある。(上P119-131、下P109-128)</p> <p>イ 「こんなときどうしよう」で、安全上の注意など、基本的な生活習慣や知識及び技能が例示してある。(上P7、27、下P31、39等)</p> <p>ウ 低学年だからこそ育てたい表現力、言語活動の場が意識してある。(上P84-85、下P92-93)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 紙面にQRコードを掲載し、学習内容と関連する参考資料をタブレット端末や、スマートフォンなどで、閲覧できる。(上P1、21、下P11、15等)</p> <p>イ 「できるかな できたかな」で振り返りをし、自己評価ができるよう設定している。(上P17、43、下P9、25等)</p> <p>ウ 「ひろがるきもち」で発展的に、学習したことを生かして次へつなげることができる。(上P17、43、下P67、83等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア わくわく→いきいき→ぐんぐんの3段階構成は、生活科の学びのプロセスを考慮して活動の流れがわかりやすく示してある。(上P4-左上、下P4-)</p> <p>イ 思いや願いがつながる「めくり言葉」が表示され、「もっとこうしたい」という思いや願いの連続性を大切にしている。(上P3-右下、下P3-)</p> <p>ウ 幼児教育の成果を生かすスタートカリキュラムへの手がかりを丁寧に示している。(上P1-15、巻頭)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 下巻の巻末には「ステップブック」があり、中学年以降の教科への期待感、低学年におけるキャリア教育で大切な「好きなこといっぱい、できることいっぱい、学校って楽しいな」という視点にも配慮している。(下P1-7、巻末)</p> <p>イ 気付きの質が高まる多様な学習活動例を、写真、表現物、イラスト、子どもの台詞などで示している。(上P82、下P64等)</p> <p>ウ 季節に合った行事、歌を例示し、日本の文化や季節の変化の素晴らしさを感じることができるように工夫している。(下P10、56、70等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 写真に、見出しや地名が明記してあり、社会科で行う資料の読み取りにつながっていく。(上P57、94、下P96-97、118等)</p> <p>イ 単元導入の「わくわくボックス」には、「なぜ」「ふしぎだな」「楽しそう」と子どもの心を揺さぶり、「やってみよう」「～したい」という思いや願いを高める学習活動を設けている。(上P4、22、下P4、14等)</p> <p>ウ 発達段階や活動に応じた、ワークシートが工夫されている。(上P16、25、下P9、17等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 保護者と共有できるように、巻末には保護者へメッセージを記載している。(上P132、下ステップブックP8)</p> <p>イ 自然災害、交通災害、人的災害、健康への配慮などの視点をもとに、適切な行動や、基本的な知識が身に付くよう資料が充実している。(上P1、18-19、下P128)</p> <p>ウ 人権や福祉、インクルーシブ教育について、配慮している。</p>

生活	生活	発行者番号 116	略称 日文	書名 わたしとせいかつ
----	----	-----------	-------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 巻末「ちえとわざのたからばこ」の中で、学び方や生活の基本的な技能について資料を紹介している。(上P125-143、下P113-133)</p> <p>イ 三つの柱に基づいた「学習のめあて」を各見開きの左下に配置している。(上P2説明、单元ごとすべて、下P2説明)</p> <p>ウ 板書や多様な表現方法の例示や話し合いの場面などを具体的に示している。(上P36、48、下P6、12等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 実践写真で「学び」を直感的に捉えられ、学習の見通しを持つことができる。(上P75、84、下P102等)</p> <p>イ 単元に深く関連する内容を、ポケット図かんとして各单元末に収録している。(上P62、80-81、下P20-21、38-39等)</p> <p>ウ 植物の成長が見える(栽培歴)「やまおり」加工がしてある。(上P37、40、下P29、33等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 上巻の冒頭には、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿に対応したスタートカリキュラムを示している。(上P4-17)</p> <p>イ 学びの連続性を重視し、下巻の冒頭に2年生における“スタートカリキュラム”となる単元を新設し、さらに3年生以降の学びへの円滑な接続を意識している。(下P4-9)</p> <p>ウ 同じ公園の季節ごとの絵や写真を提示し、比べたり、例えたりすることで、気づきが生まれるように単元構成している。(上P50-51、76-77、104-105)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 右端の赤い枠から、ワンポイントアドバイスにつながり、学びのヒントが児童と教師で共有して確認できるようになっている。(上P21、23、下P7、13等)</p> <p>イ 単元で作成した学習カードを掲示し、気づきの質を高め、学びの定着を図っている。(上P48、56-57等)</p> <p>ウ 学びを実生活や実社会とつなげる手立てが見えるよう設定してある。(上P56-57、74、116-117)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「がっこうをたんけんしよう」の振り返りで使用した学習カードを次の単元の導入に生かしており、単元相互の関連が見える。(上P25と48)</p> <p>イ 「ふりかえる つなげる」で振り返ったことを次の探検に生かし、広がるよう位置付けられている。(上P21、25、下P7、15等)</p> <p>ウ 自ら話したくなり、聞きたくなる活動を夏休み前後に小単元として設定し、活動や材料の具体例や工夫例が図や吹き出し・コメントで示され、活動のポイントが意識しやすくなっている。(上P62-65、下P40-43)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 入学当初に行う通学路の様子を調べる活動をはじめ、安全を守ってくれる人々の存在を知り、安全な登下校の指導が図れるように配慮されている。また、自然災害、交通災害、人的な災害にも目を向け、2年間を通してそれらに対応できるようになっている。そして、自分たちの生活には地域の人々や様々な場所が関わっていることにも気づけるように構成されている。(上P4-17、下P13、15等)</p> <p>イ 3年生以降の学習へつながるよう内容が取り上げられている。(下P110-111)</p>



音樂

音楽	音楽	番号 17	略称 教出	書名 小学音楽 音楽のおくりもの
----	----	-------	-------	------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習のねらいや見通しが紙面左上に、基本となる音楽活動が「スキルアップ」コーナーに示されている。(2・3年P4-5、4～6年P6-7)</p> <p>イ 各題材の新出事項、音楽を形づくっている要素(「音楽のもと」)、記号が右ページの上や端、巻末などに示されている。(2年P17、4年P13)</p> <p>ウ 打楽器やソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ等の構え方や奏法などが視覚的に分かるよう、写真やイラスト、「楽器図かん」で示されている。(1年P34-39、3年P16-23、4年P47)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 音楽を形づくっている要素を自分なりに感じ取り、思いや意図をもって表現に生かすために、動作化の例が示されている。(1年P16-19、4年P18-19)</p> <p>イ 自分の学びを言語化して確認したり、友達と学びを共有したりすることで言語活動の充実につながるワークシートや透明シートが設けられている。(3年P9、5年P31)</p> <p>ウ 見通しをもって主体的に学習するために、全学年に「まなびナビ」、第3学年以降に「学び合う音楽」コーナーが設定されている。(2年P12、6年P11)</p> <p>エ 想像豊かに音楽を聴いたり表現したりするための手がかりとして、全学年に大画面の写真や絵が掲載されている。(4年P8-10)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 音楽的な見方・考え方を働かせながら資質・能力を育む題材、生活や社会の中の音や音楽との関わりを意識した題材が系統的に配列されている。(2年P28-29、3年P32-35、4年P32-33)</p> <p>イ 声を音素材とした音楽づくりや旋律に着目した音楽づくりなど、学年が上がるにつれて学習内容が深まることを意識した系統的な題材配列になっている。(1年P46-47、3年P26-27、5年P46-47)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 育成された力を発揮して思いや意図に合った音や音楽をつくっていく音楽づくりの教材が、「音のスケッチ」として全学年に掲載されている。(2年P24-25、3年P26-27)</p> <p>イ 協働的に学びを深めていくような学習活動が設定されている。(2年P18-19、6年P46-47)</p> <p>ウ 前に学習したことを生かして音楽活動を行うことができるように、既習事項がカエルのマークで示されている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 学習課題に対して既習事項を解決のための視点として示しながら学習を展開するような題材構成や、発展的な課題として「もっとあそぼう」コーナーを位置付けた題材構成が見られる。(5年P50-51、57)</p> <p>イ 題材全体をとおした学習課題に対して表現と鑑賞を組み合わせる段階的に迫り、解決していくような題材構成になっている。(2年P42-45)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 生活や社会の中の音や音楽との関わりを紹介し、音楽が生活を豊かにすることを示している。(4・5・6年表紙裏、P1)</p> <p>イ 歌唱共通教材の歌詞が重視されており、歌詞のみを取り上げているページがある。(3年P40-41)</p> <p>ウ ICT活用や個に応じた支援・指導の工夫につながる「まなびリンク」が随所に設けられている。</p>

音 楽	音 楽	番号 27	略称 教芸	書名 小学生の音楽
-----	-----	-------	-------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 見通しをもって学習するための学習の概要が巻頭に、学習したことを確認するための振り返りのページが巻末に設けられている。 (1・2年P80-81、3～6年P82-83)</p> <p>イ 新出事項は「あたらしくおぼえること」として、音楽を形づくっている要素は右ページ下にまとめて示されている。(2年P36、3年P23)</p> <p>ウ 打楽器や鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーなどの基本的な演奏技術が分かるよう、写真や図が大きく示されている。 (1年P50-51、3年P20-21)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 思いや意図に合った表現にするために必要な知識・技能の習得につながる一人学び等の活動例が示されている。(4年P33、35)</p> <p>イ 気付きや思考を促すための視点がキャラクターの吹き出しで示されている。(5年P15、23、30-31等)</p> <p>ウ 学習意欲を高めたり発展的な学習を促したりする、演奏家のアドバイスやチャレンジコーナーが示されている。(3年P25、63、4年P58-59)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全学年において表現と鑑賞の教材を組み合わせた題材構成によって、多様で効果的な学習展開が設定されている。</p> <p>イ 第3学年で「リコーダーのひびき」「いろいろな音のひびき」「音の重なり」というように学習内容が広がり深まる題材の設定が、どの学年でも見られる。また、第3学年と第4学年の「いろいろな音のひびき」が第6学年では「いろいろな和音のひびき」に発展するなど、学年間の系統性に配慮した題材構成になっている。(3年P48、4年P48、6年P28)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 他教科との関連を図りながら学習するための教材が取り入れられている。(3年P58-63、4年P30-31)</p> <p>イ 「呼びかけとこたえ」を活用した複数名での音楽づくりなど、協働的に学習する教材が設定されている。(2年P46-47、3年P56-57)</p> <p>ウ 音楽を形づくっている要素を焦点化して取り上げ、様々な楽曲をとおして音楽的な見方・考え方を働かせながら学習活動を展開していくような題材構成が設定されている。(4年P40-47)</p>
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 調べ学習や、作詞者の工夫を考える活動など、音楽活動をとおして学んだことを発展させる課題が示されている。(4年P28-29、5年P46)</p> <p>イ 和楽器による楽曲の鑑賞後、実際に箏を演奏する活動を設定するなど、学習課題に対する意識の流れに配慮されている。(4年P56-58)</p> <p>ウ 題材全体をとおした学習課題に対して段階的に迫り、解決していくような題材構成になっている。(4年P18-25、5年P16-23)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 生活や社会の中の音や音楽との関わりに気付きながら学習活動を進めていくための教材や、著名な人物のメッセージなどが随所に掲載されている。(1年P30、2年P28、6年P47、5・6年表紙裏)</p> <p>イ 歌唱共通教材の歌詞のみを取り上げたり、伝統音楽と文化とのつながりのわかる写真が添えられたりと、我が国や郷土の文化や自然などを意識した紙面構成が見られる。(3年P60-61、5年P12-13)</p> <p>ウ I C T機器を活用して楽器の持ち方や打ち方などがわかる動画が見られるウェブサイトへ誘導するための、二次元コードが紙面右下にある。 (1年P23、25、3年P9、11)</p>



# 図画工作

図画工作	図画工作	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 図画工作
------	------	---------	--------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学習のめあて」が資質・能力の三つの柱に基づいて整理されており、その題材で重点的に育てたい力には、下線が引かれ、強調されている。</p> <p>イ 各ページの題材名の上に、その題材で使う材料と用具が示してあるとともに、「造形の引き出し」を巻末に設け、多種の材料と用具の正しい使い方を紹介している。</p> <p>ウ 題材によって配慮すべき内容を「安全」の囲みを設けて具体的に示したり、「かたづけ」の方法を囲みを設けて示したりしている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各題材において、児童の活動の様子や作品の写真を掲載することで、児童の造形に対する意欲を喚起する工夫がされている。(造形活動を楽しむ様子、共同で行う活動の様子が多く例示されている。)</p> <p>イ 題材ごとに「学習のめあて」に対する「ふりかえり(かえるマーク)」を設け、学習で身についた力の確認ができるようにしてある。</p> <p>ウ 教科書紙面に掲載されたQRコードを通して、題材製作の手順やポイント、用具の使い方を見ることができる。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学年の冒頭にあたる見開きページでは、目次にある題材が写真とともに紹介してあり、1年間の学びの見通しが示してある。</p> <p>イ 表紙にある学年のテーマと、発達の段階に合わせた造形活動を結びつけるイメージを例示するページが設けられている。(各学年P6-7)</p> <p>ウ 全ての学年において「ひらめきコーナー」を設け、気軽に表現する楽しさに気づかせる活動が紹介してある。(各学年P18-19)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 表紙に学年のテーマが大きく示され、各学年で扱う材料を用いて表現することで、造形への意欲・関心を高める工夫がしてある。</p> <p>イ 巻末にある「学びのしりょう」では、用具の使い方だけではなく、児童の主体的な活動を支える情報が整理して掲載されており、造形的な見方・考え方の広がりにも働きかけている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 各学年において、郷土愛を育むという視点で地域や伝統に関わる内容を重点的に取り上げている。特に5・6年生の「みんなのギャラリー」では、各地に伝わる伝統工芸や地域の造形を紹介している。</p> <p>イ 各学年、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、図画工作科での学びと、他者や社会、伝統、自然や環境等とをつなげて構成してある。特に5・6年上下では、「つながる造形」という枠を設けている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 他教科と関連のあるページには、「あわせて学ぼう」マークが示してあり、教科横断的な学習に展開させるための視点が示されている。</p> <p>イ 小学校英語に対応し、図画工作科で使う言葉の英単語が示されている。(QRコードを通して音声を聴くことができる。)</p> <p>ウ 校種間のつながりに配慮し、幼稚園(保育所)と小学校、小学校と中学校の接続を考えた事例を取り上げている。(1・2年上、5・6年下)</p> <p>エ プログラミング教育に関係する事例を取り上げている。(5・6年上下)</p> <p>オ カラーユニバーサルデザインの考え方で紙面の配色を工夫する等、特別支援教育やインクルーシブ教育に対応した配慮がある。</p>

図画工作	図画工作	発行者番号 116	略称 日文	書名 図画工作
------	------	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学習のめあて」が資質・能力の三つの柱に基づいて整理されており、活動の様子や作品例が、その資質・能力を育むための発想や活動のヒントとなっている。</p> <p>イ 「使ってみよう材料と用具」(各巻末)では、造形活動の流れに即した材料や用具の使い方に加え、児童の発想を刺激し、表現を広げるきっかけになる様々な表し方が例示してある。</p> <p>ウ 題材(見開き2ページ)ごとに、「導入→展開→振り返り」の一連の造形活動の流れが見える紙面となっている。(用具・使い方、つくりかた、きをつけよう、かたづけ等も統一したデザインで表記されている。)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭にオリエンテーションのページが設けられ、教科書を使った学び方が分かりやすく示してある。</p> <p>イ 児童のつぶやきが吹き出しで示され、その中に製作上の思いや発想のヒントとなる言葉を入れることで、子どもたちの自主的・自発的な学習を促している。(キャラクター「ちろたん」が活動のヒントを紹介)</p> <p>ウ 各題材名の上に、具体的に何をどのように学習する題材なのかを平易な言葉で記してある。個に応じた支援となっている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 育みたい資質・能力を柱にした系統性が大切にされており、発達の特徴に合わせて学びを深めていけるような題材構成が工夫されている。</p> <p>イ 扱う材料・用具について、6年間の経験を見通した構成が考えられており、様々な材料・用具に触れながら、造形体験を積み上げていけるように組み立てられている。</p> <p>ウ 幼児期及び中学校との接続を意識し、児童の実態に応じて実践できる題材や6年間の学びをつなぐ題材が示されている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 見方・考え方を働かせて発想するためのヒントとなる「ひらめきポケット」が各学年に2ページ設けてあり、児童の発想の広がり働きかけている。</p> <p>イ 参考作品の作者の思いや工夫が文章で示され、それぞれの発達の段階に応じた鑑賞の視点を与えている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻頭の「教科書美術館」では、発達の段階に合わせたテーマで、身の回りのものから美術作品まで、幅広い図版が掲載されており、形や色から発想を広げる工夫がされている。</p> <p>イ 「図画工作のつながりひろがり」では、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、図画工作科の学びを家庭や地域と共有する事例が掲載されている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科等との学びのつながりを意識した題材の設定がある。(道徳科の関連題材のみ道徳マークが示されている。)</p> <p>イ 地域文化・伝統文化、環境、防災・安全、平和・人権・福祉、多文化の共生等、児童の未来へ学びをつなぐ事例や作品が紹介されている。</p> <p>ウ 特別支援教育の視点からのカラーユニバーサルデザイン等への配慮や、題材内容の把握に必要なデジタルコンテンツがある。</p> <p>エ 多様性への配慮が意識され、多様な児童が共に学び合う姿や、幼児・高齢者・障がいのある人など多様な人々に関わる姿が掲載されている。</p>



家庭

家庭	家庭	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい家庭
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 習得すべき基礎的・基本的な知識・技能を、「いつも確かめよう」や巻末資料の写真、イラスト等にまとめている。また、インターネットに接続して動画等を見ることができる。(P10-11、17等)</p> <p>イ 家庭科の「見方・考え方」の視点を「家庭科の窓」として巻頭で示すとともに、大題材のタイトル横に示している。(P4、5、6、14等)</p> <p>ウ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を児童が自己評価するために、実習後に「できたかな」を設定している。(P11、19等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学んだことを活用し、自ら課題を設定して解決する実践の過程を「生活を変えるチャンス」として具体的な実践例とともに掲載している。(P31、61等)</p> <p>イ 児童が見通しをもって学習するために、ガイダンスページで学習過程を3ステップで示している。また、大題材の最初に掲載するとともに、小題材タイトルにも明記している。(P4、5、6、7等)</p> <p>ウ 児童が実習計画を立てる際の手がかりとなる、実習及び製作に必要な用具等が掲載されている。(P10、18等)</p> <p>エ 大題材ごとに児童が自己評価し、自身の成長を自覚するために、2年間で習得すべき基礎的・基本的な知識・技能を「成長の記録」としてまとめて提示している。(P3)</p> <p>オ 巻末資料に実寸大写真を掲載したり、UDフォントを採用したりする等、個々の実態に配慮されている。(P131-132等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 製作や調理について、学習指導要領で指定された題材を中心に、基礎的・基本的な内容から応用・発展的な題材を段階的に配列している。</p> <p>イ 生活の課題と実践に関わる題材を大題材のまとまりごとに掲載している。(P31、61等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 最終題材は2年間の総まとめとして、家族や地域の一員としての自覚を高める内容となっている。異なる世代との交流や防災教育の視点を重視した多様な実践例を掲載している。(P122-127)</p> <p>イ 衣服と住まいに関わる題材を関連させて学習するよう、1つの大題材として第6学年に設定している。(P87-94、117-121)</p> <p>ウ 第5学年の最初に学習するガイダンスページ(目次)では、大題材の項目番号が、2年間の通し番号となっている。(P1、2)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 消費生活の内容は、買い物の仕組み、物や金銭の大切さについて理解するために、写真や実際の買い物場面を掲載している。特に、売買契約の成立や消費者の役割について詳しく掲載している。(P34-35)</p> <p>イ 持続可能な社会の構築に関わる学習では、消費生活と関連させた大題材を設定している。(P32-39)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 日本の伝統的な生活に関わる資料や各界のプロフェッショナルのインタビュー記事等を掲載し、グローバルな視点から日本の生活文化のよさを紹介している。(P57、63、105等)</p> <p>イ A4判と紙面が大きく、課題解決の手がかりとなる資料が効果的な分量や大きさと掲載されている。</p>

家庭	家庭	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 小学校 わたしたちの家庭科
----	----	---------	--------	------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 習得すべき基礎的・基本的な知識・技能が「できたかな」で示されている。また、掲載されているQRコードを読み取ると、動画等の資料を見ることが出来る。(P14-15、23等)</p> <p>イ 家庭科の「見方・考え方」の視点を巻頭で示すとともに、題材の学習内容ごとに案内役のキャラクターを使って示している。(P1-2、31等)</p> <p>ウ 実習手順に沿って児童が自己評価するために、調理や製作に関わる基礎的・基本的な知識・技能を「できたかな」に示している。(P14-15)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学んだことを活用し、自ら課題を設定して解決する実践の過程を「レッツトライ 生活の課題と実践」として掲載している。(P76-79)</p> <p>イ 児童が大題材の見通しを持つために、問題解決的な学習過程を「学習のめあて」として大題材の最初に提示している。(P8、10等)</p> <p>ウ 児童が自ら生活を見つめ直し、課題を見つけるために、大題材の導入に写真やイラストを掲載している。(P8-9、28、124-125等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア スモールステップで学習を積み上げ、基礎的・基本的な知識・技能が着実に習得できる構成となっている。(P20-27)</p> <p>イ 生活の課題と実践に関わる題材を第5学年と第6学年の中間にまとめて掲載している。(P76-79)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第6学年の終わりに、地域とのつながりや地域の一員としての自覚を高める大題材を設定している。(P120-123)</p> <p>イ 衣服と住まいに関わる題材を、2年間で段階的に設定している。(P64-71、94-102)</p> <p>ウ 食事の役割や衣服及び住まいの主な働きへの理解が深まるように、衣食住に関わる基礎的・基本的な知識・技能を学習する第5学年では、大題材の最初に「なぜ〇〇するのだろうか」と問いかけている。(P10、20等)</p> <p>エ 中学校技術・家庭「家庭分野」の学習との系統性を整理した資料を掲載し、中学校との接続に配慮している。(P126-127)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 消費生活の内容は、消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方を理解するために、チャート図で掲載している。(P60)</p> <p>イ 持続可能な社会の構築の視点について、教科書全体にわたってマークやキャラクターで環境の視点を入れている。また、2年間の総まとめとして、持続可能な社会の構築の視点について考える最終題材を設定している。(P17、32等、P124-125)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 防災教育及び安全面への配慮について、大題材ごとに「安全マーク」で示している。また、自然災害も含めた安全な実習について考える特設ページを設けている。(P6-7、12等)</p> <p>イ 生活の中で受け継がれてきた伝統文化に関わる事例を、衣食住を中心に掲載している。(P130-131、鳥取県の事例P56、119)</p> <p>ウ 家庭科の用語を解説する「ひとロメモ」や「ねじりしぼり」の方法を解説した写真等、日本の生活文化に関する記載がある。(P14、101等)</p> <p>エ プログラミングが日常生活にどのように関わっているのか、具体例を示している。(P128-129)</p>



保健

体育	保健	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい保健
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習活動と授業の流れが一目でわかるよう各項目の冒頭で「学習の進め方」が示してある。(3・4年P5、11等)</p> <p>イ 各章末に学習を振り返るページがあり、自己評価をし、自分の生活や今後の学習に生かすためのページが示してある。(3・4年P23等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 仲間と話し合いながら、対話を通して課題を解決していくことができるように配慮されている。(3・4年P35、5・6年P11)</p> <p>イ 学習内容を広げ、深める、発展的な学習ができるよう全部の学年で項目ごとに豊富な資料を掲載している。(5・6学年P52)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 対話的で深い学びになるように、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4段階で構成し、4ページにまとめている。(5・6年P29-32)</p> <p>イ 実習を通して、技術を身に付けることができるようになっている。(5・6年P44)</p> <p>ウ 学習内容に関連する機関のURLが記載され、自発的・発展的な学習ができるようになっている。(Dマーク：3・4年P16)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 目標に対して、今後どのような学習をし、他の教科領域との関連があるかが各章の最初の1ページにまとめてある。(3・4年P4-5)</p> <p>イ カリキュラム・マネジメントに対応する具体的な学年や単元名、道徳の価値項目が書いてあり、教科等横断的な指導ができるよう配慮している。(3・4年P4)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 5年「けがの防止」で、事故やけがの原因を「人の行動」と「環境」の表を使ってまとめるようにしてある。(5・6年P23)</p> <p>イ 児童の生活場면을想起させる写真やイラストを配置し、児童が身近な例から、健康課題に気づいたり見つけたりすることができるようになっている。(3・4年P11、19等)</p> <p>ウ 5年「けがの手当」で原理原則に立ち返らせ、自分でできるけがの手当を考えさせるようにしてある。(5・6年P42-43)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「犯罪被害の防止」について、資料から現状を把握させ、身近な問題として考えさせる工夫がしてある。(5・6年P37)</p> <p>イ 体力向上についての資料が充実している。(3・4年P42-43)</p>

体育	保健	発行者番号 4	略称 大日本	書名 たのしい保健
----	----	---------	--------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各章ごとに◎○△で振り返りをするページがあり、自己評価が簡単にできる。(5・6年P16)</p> <p>イ 章の終わりに振り返りと活用場面が設定されている。(3・4年P20)</p> <p>ウ 学年末に学習をまとめるページが設けられている。(3・4年P36)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各単元の導入で学習ゲームが提示してある。(デジタルコンテンツ)。</p> <p>イ 学習意欲を高め、学習を効果的に展開できる工夫として、シールを活用している。(3・4年P20、25、36)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1単位時間の学習内容を、見開き2ページにまとめている。</p> <p>イ 発展的な資料として、「もっと知りたい」コーナーを設定し、「ミニ知識」からリンクできるようにしている。 (3・4年P18-19、5・6年P50-51)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 4年「育ちゆくからだわたし」で、成長に個人差のあることや、自分の心と体にこれから起こる変化を、肯定的に受け止められるよう配慮している。(3・4年P26-31)</p> <p>イ 発展的学習としてインターネット検索のwebマークに検索キーワードを表記している(5・6年P51下段等)。</p> <p>ウ 学習への導入として、見開きのイラストを活用している。 (5・6年P18-19)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 学校医等保健活動に関わる専門職を3年生にわかるように紹介している。(3・4年P19)</p> <p>イ 不安や悩みへの対処法として「軽くする」という視点でまとめている。(子どもSOSダイヤルなど相談窓口が明記してある)(5・6年P15)</p> <p>ウ たばこやアルコールを勧められた時の断り方を「相手の様子」「自分の気持ち」「提案」「提案理由」というキーワードでまとめている。 (5・6年P47-49)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 発展として「受けつがれていく命」「共に生きる」を設定し、生命尊重に係る道徳との関連を図っている。(3・4年P37、5・6年P57)</p> <p>イ 教科書が軽量でコンパクトである。</p>

体育	保健	発行者番号 207	略称 文教社	書名 わたしたちの保健
----	----	-----------	--------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 毎時間の重要語句や重要箇所が太字や色囲みしてあり、統一した形式で構成されている。(5・6年P6-7、3・4年P4-5) イ 文字が大きく、すっきりとしたレイアウトになっている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 夢や目標を達成するために、心と体の健康が大切であるという県内外のアスリートのメッセージや経験者からのアドバイスを掲載している。(3・4年P17、5・6年P53等) イ 実践への意欲づけを図るため、各単元のまとめとして、「〇〇宣言」という記入欄が設定されている。(5・6年P26、52等)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 学習のはじめに、自己を振り返る活動を設定し、見通しを持って学習に取り組めるよう配慮している。(5・6年P2、14等) イ 自己チェックをして、学習内容に関心を持たせる工夫をしている。(3・4年P8-9等) ウ 「心の健康」では、「やってみよう」で運動領域「体ほぐしの運動」を具体的に提示し、気分転換の方法を提案している。(5・6年P10)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア つながっている生命をイラストで提示し、自分の体の変化に対して健全な関心が持てるよう配慮してある。(3・4年P18) イ 5年「地域での安全」では、着衣泳を取り上げている。(5・6年P23) ウ 5年の「けがの防止」では、けがの時間、場所についてのグラフを提示し、児童の身近な問題として話し合う視点を提示している。(5・6年P17)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 熱中症について、身近に起こる病気として詳しく説明している。(5・6年P27) イ エイズウイルスに関する正しい理解をイラストや文章を通じて促している。(5・6年P37) ウ 鳥取県内の写真が掲載されている。(各学年表紙、5・6年P23)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 4年生の「体の発育と発達」で、新体力テストと関連した資料が提示してある。(3・4年P31) イ 防災のあり方を「自助」「共助」「公助」の視点で減災が意識できるようにまとめてある。(5・6年P28-29) ウ 郷土料理を取り上げ、食の大切さとともに郷土と文化の大切さについて考えさせる工夫がある。(3・4年P30)

体育	保健	発行者番号 208	略称 光文	書名 小学保健
----	----	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア イラストや図表などの資料が多用され、視覚による理解を図っている。(3・4年 P14-15、5・6年 P28-29 等)</p> <p>イ 学習への見通しを持たせるため、「はじめに」という見出しで、学習課題や自己との関わりを見つけていくようにしている。(3・4年 P8-9、12 等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア トップアスリートをはじめ、様々な専門性のある人の言葉を幅広く使っている。(巻頭)</p> <p>イ ストーリー形式で児童が読みたくなる工夫がしてある。(各学年 P2)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学習の系統性や教科等横断的な学習を重視し、各学年の他教科等との内容と関連させている。(3・4年 P12-19、36、5・6年 P43、P48-51)</p> <p>イ 各単元に「調べよう」「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」の4つの学習活動を組み合わせて、1 単位時間の学習内容を見開き 2 ページにまとめている。(5・6年 P32-33、40-41 等)</p> <p>ウ 単元の課題への見通しを持たせるため、単元のはじめに 4 コマ漫画を提示している。(5・6年 P7、21 等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 5年「けがの防止」では、けがや事故の防止のために今日的な課題と関連させた具体的な方策が紹介されている。(5・6年 P28-31)</p> <p>イ 6年「病気の予防」では、うつらないための予防だけではなく、うつさない配慮も必要であることも紹介している。(5・6年 P42-44)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 運動を通じて体力を養うことの重要性を考えた資料が多い。(3・4年 P35、5・6年 P52 等)</p> <p>イ ストレスについて解説し、ストレスをすべて否定するのではなく、「適度なストレス」が心身の成長に必要なものであることを理解させる工夫がある。(5・6年 P19)</p> <p>ウ 「科学のとびら」として、学習内容の理解を深める資料を提示している。(5・6年 P18、42 等)</p> <p>エ 「結核」「エイズ」「新しい感染症」等、感染症について幅広く紹介している。(5・6年 P46-47)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 性同一性障害・よりそいホットライン等人権に配慮されている。(3・4年 P33)</p> <p>イ ICT を利用するにあたっての使い方や注意に関する内容が多い。(3・4年 P5、15、5・6年 P34 等)</p>

体育	保健	発行者番号 224	略称 学研	書名 みんなの保健
----	----	-----------	-------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「かがくの目」のコーナーで、レントゲン写真や実験結果など、見えないものを視覚化した科学的な資料を掲載している。(3・4年P15、23等) イ 単元の最初のページが写真資料で統一しており、学習課題が明記され、資料としても活用できる。(3・4年P5、19等)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 単元ごとに「もっと知りたい・調べたい」コーナーを取り上げ、興味・関心にこたえる資料が豊富である。(3・4年P10-11、32-33等) イ 健康・安全についての基礎的・基本的な知識の実践的な理解と、その活用・探究に重点が置かれ、活用のコーナーが充実している。(3・4年P35-36、5・6年P14-17)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」と「本文」で学習が構成されている。(3・4年P6-7) イ 5年「けがの防止」では、けが全般の発生原因を学習し、その後に「交通事故の防止」「学校や地域でのけがの防止」という順に学習する配列になっている。(5・6年P23-25) ウ 友だちと一緒に学習したり、対話的に学びあったりする課題が明確に設定してある。(3・4年P7、5・6年P35等)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 3年「健康な生活」では、自己の生活を振り返る書き込み欄が充実している。(3・4年P6、9、11) イ 4年「育ちゆく体とわたしたち」では、思春期の体の変化について、シルエットや服を着た姿の写真が用いられている。(3・4年P24-25) ウ 5年「けがの手当」では、大きなけがが起こった時の具体的な通報の仕方まで提示してある。また、重要事項を赤字で強調し、手当の仕方やその理由となる基礎・基本を詳しく説明している。(5・6年P30-31)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 医学や保健の分野での日本人の世界的な活躍を取り上げている。(5・6年P45) イ 3年「1日の生活のしかた」の「もっと知りたい・調べたい」コーナーに、便と健康や体温のリズムについて触れている。(3・4年P10-11) ウ 5年「こころの健康」では、スクールカウンセラーを主体にしたページを設定し、相談を促すとともに、体験談も載せ、様々な児童に対応できるようにしている。(5・6年P15)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア いじめ問題等、人権教育の視点が充実している。(5・6年P17) イ 「病気予防」の発展としてがんを取り上げている。予防だけではなくには防ぎきれないことを踏まえ、検診や早期の回復の大切さについても触れている。(5・6年P44)

英語

外国語	英語	発行者番号 2	略称 東書	書名 NEW HORIZON
-----	----	---------	-------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア Check Your Steps でこれまでの学びを振り返り、身についた力を総合的に見取る活動が設定されている。(5年P34、62、6年P30、60等)</p> <p>イ 豊富な歌やチャンツで、そのUnitの重要語彙や表現が扱われ、繰り返し楽しみながら語彙や表現に触れられる。(5年P11、6年P7等)</p> <p>ウ 頁の下方に帯活動の例が示されており、Small talk、Word Link、Sounds and Letters等、継続的な文字指導や児童の発達段階に配慮したテーマで、既習事項を繰り返し表現する機会が確保されている。</p> <p>エ 別冊のPicture Dictionaryには絵とともに単語や表現が4線上に掲載されており、授業や家での復習で既習事項を確認できる。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各単元内の学習活動を定位置に配置し、児童及び教師が学びやすい構成になっている。(5年P10-35等)</p> <p>イ 児童がそのまま書き写して学べる新ユニバーサルデザインの書体を使用し、4線の幅や線種、基線の色使いにも細心の注意を払っている。(5年P86-96、6年P90-95等)</p> <p>ウ 200箇所QRコードが掲載されており、教科書に掲載されている場面の映像や音声にアクセスでき、質の高い英語の音声に触れられるようにしている。(5年P10、6年P6等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「自分」のことから、「地域」「日本」「世界」へと学習内容を広げ、異学年で使う表現や話題を緩やかにつないでいる。カリキュラム・マネジメントにも適した構成としている。(5年P1-3、6年P1-2等)</p> <p>イ 別冊のPicture Dictionaryで「英語で何ができるようになるのかな?」の頁に2年間を見通したCAN-DOリストを明示している。(別冊P44-45)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 音声から文字への流れを重視し、各単元が「聞く→話す→読む→書く」(「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」)の流れで構成されている。(5年P10-17、6年P6-13等)</p> <p>イ 単元の目標やGoal、おさえるべきポイント表現を明示し、紙面から授業全体の流れやポイントが分かる構成となっている。(5年P4、5、10、17、6年P3等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻末にコミュニケーションカードが用意されており、本単元で学習した語彙や表現を使って行うコミュニケーション活動で使用できるようにしている。これらは、学びの記録として残せるポートフォリオとなる。(5年巻末P2、6年巻末P3等)</p> <p>イ 単元の終わりにOver the Horizonが設定されており、異文化情報に触れて、世界を広げられる頁を設定している。また、他教科関連マークを示し、学んだ英語をもとに他教科との融合が図られるようにしている。(5年P11、16-17、6年P13、50-57、58-59等)</p> <p>ウ 日本の魅力を世界に伝えたい児童の思いを引き出すような伝統文化に関する題材や、地域教材を用意している。(5年P1-3、82-83、U7等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 平和、国際理解に主眼をおき、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う題材を多く取り入れている。(5年P60-61、6年P20-21等)</p> <p>イ 外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人を豊富に扱ったり、職業と関連した活動を設定したりして、キャリア教育につながる題材を豊富に取り入れている。(5年P26-33、6年P72-79、81等)</p> <p>ウ 巻末カードの切り取り等に時間を要さないようミシン目が入っている。</p>

外国語	英語	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 Junior Sunshine
-----	----	---------	--------	--------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 身に付けた知識・技能を用い、Let's try等で自分の考えを友達と共有する生きたコミュニケーション活動が多彩に盛り込まれている。単元序盤で学習した単語や表現を活用することで、知識と技能の習得を図るようにしている。</p> <p>イ 新しい語彙や重要な表現は、歌、チャンツ、Let's ListenやLet's Playなどの活動で繰り返し学習を行えるようにしている。</p> <p>ウ 英語の読み書きについては、高学年で初めて学習することを鑑み、教科書後半に独立して体系的にまとめられている。(5年P81-105、6年P81-101等)</p> <p>エ 活動単位で学習を振り返ることで、何ができるようになったか(確実な定着)を意識できるようになっている。(5・6年P11等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各単元にペアワーク、グループワークが設定されており、友達同士で協力し合い、学習に取り組む活動が設定されている。(5年P10、6年P16-17等)</p> <p>イ 文字は手書きに近い書体を採用し、読みづらい位置での改行を避けたり、できるだけ文字を大きく掲載したりしている。</p> <p>ウ QRコードが掲載されており、教科書に掲載されている表現の音声や動画にアクセスでき、質の高い英語の音声に触れられるようにしている。(5年P7、6年P5等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 5年生では「英語で広がる世界」(日本の話題が中心)6年生では「世界の中の自分」(世界に範囲を広げる)というテーマに沿って内容が配列されており、身近なことから世界のことに視野を広げる構成となっている。(5年P2-3、6年P2-3等)</p> <p>イ 教科書の冒頭にCAN-DOマップを設けることで、この教科書を学ぶことでどのようなことができるか明確に示されている。(5年、6年前見返し)</p> <p>ウ 5年生の冒頭、6年生の巻末には、前学年、中学校との接続を図るページが設けられており、無理のない接続が図れるよう工夫されている。(5年P4-5、6年P102-109等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各単元において、単語の習得(易)から表現の習得(難)へと活動が配列されている。</p> <p>イ 冒頭のリスニング活動で単元のゴールを見通し、単元末のLet's Tryに向けて必要な学力を身に付けながら学習を進められるようになっている。</p> <p>ウ 児童が主体的に活動しやすいように、題材を児童の生活に密着したものとしたり、季節に合わせて配列したりしている。(5年L7、9、6年L5、6、9等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 5・6年生の「チャレンジ」コーナーで、発展的な学習の場が設けられている。(5年P32、47、74、6年P39、74、102-109等)</p> <p>イ 国語や社会など他教科と関連した活動やコラムを多く配しており、他教科関連マークでどの教科と関連しているか分かるようにしている。(5年P12、38、6年P24等)</p> <p>ウ 随所に地域的な話題を取り入れて、児童が自分の住んでいる地域について考えたり、日本のことを紹介する単元や日本の文化と世界の文化を比較し、自国の伝統文化について再発見したりする機会を設定している。(5年L9、P19、6年L4、7等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養えるよう、異文化理解、自国の伝統・文化への理解を深める内容を盛り込んでいる。(5年P15、19、6年L4、10等)</p> <p>イ 職業と関連した活動や、自分の将来の夢を語る活動等を設定し、キャリア教育につなげている。(5年L3、6年L7等)</p> <p>ウ 児童の興味関心を高める旬な題材である東京オリンピック・パラリンピックやプログラミングを扱っている。(5年P47、48-49、6年L8等)</p>

外国語	英語	発行者番号 11	略称 学図	書名 JUNIOR TOTAL ENGLISH
-----	----	----------	-------	-------------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各レッスンの最後のUse &amp; Checkでは、総復習としてそれまでに聞いたり読んだり書いたりして学習した内容を別の場面で使用し定着を図る機会を設けている。(5年P30-31、42-43、6年P26-27等)</p> <p>イ 各レッスンで伝統的な英語の歌やレッスンシーンを毎時間聞かせ、英語の自然なリズムやイントネーションなど良質な音声によるインプットを行う機会を繰り返し設けている。(5年P22-23、34-35、6年P18、19等)</p> <p>ウ アルファベットの読み書きが定着するよう、すべての時間に「書く活動」や「Sounds &amp; Letters」を設定している。(5年P25、27、6年P21等)</p> <p>エ Word Cornerでは、前レッスンと関連付け、Word Listではカテゴリー毎に語彙を掲載している。(5年P67-68、93、6年P140-147等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ただ単に繰り返す練習にならないよう、実際の自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動になるよう工夫されている。(5年P25-26、6年P21、24等)</p> <p>イ 文字はUDデジタル教科書体を採用し、4線の幅はローマ字の学習や中学校で一般的に使用されているものを使用している。</p> <p>ウ 紙面にQRコードが記載されており、家でも教科書に掲載されている表現の音声にアクセスでき、質の高い英語の音声に触れられるようにしている。(5年P24、6年P20、22等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 5年生ではより多くのインプットの活動を取り入れ、6年生ではアウトプットの機会をより増やし、発達段階に応じて内容を構成している。(5年P24、26、28、6年P32、34等)</p> <p>イ 6年生のレッスンには5年生の内容が繰り返し扱われており、語彙や表現が定着するように単元が設定されている。(6年P22-23、34-35、46-47等)</p> <p>ウ 学年の始まりにプレレッスンを設け、前学年までに学習した表現や語彙を整理することで学年間の接続を図るようにしている。(5年P10-20、6年P10-16等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 十分なインプットを経た上でアウトプットをする活動を段階的に設け、自らの発信が無理なく行えるように構成している。</p> <p>イ 各レッスンに扉を設け、何を学ぶのかとどのように学びを進めるかを明示し、児童が見通しを立てられるようにしている。また、毎時間行う基本セットを提示している。(5年P7、21、6年P7、17等)</p> <p>ウ レッソンの最後に児童自身の振り返りや評価に使えるよう、扉の目標と対応しているCheck Timeが設けられており、主体的な学びが促進するようにしている。(5年P31、43、6年P27等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア まとまり毎に深い学びができるよう、各学年で2回Project timeが設けられており、グループワークなど多様な発表活動が展開できるようになっている。(5年P79-80、137-138、6年P77-78、133-134等)</p> <p>イ 他教科等に関連する内容や、世界の文化や風習の紹介、その背景にある思いなど異文化に関する内容をコラムで扱っている。(5年P32、44、63、111、6年P28、38、47、52等)</p> <p>ウ 伝統文化を意識した場面で日本のことを紹介したり、自分たちの学校や地域の行事を紹介したりする活動を取り入れ、郷土愛を育むことができるようにしている。(5年P82、83、101、6年L3、5、P59等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 巻末のWord Listや6年生のWord Cornerではオリンピック競技について扱っている。(6年P39、142-143等)</p> <p>イ 男女のステレオタイプが生じないように配慮し、将来の夢や好きなこと、得意なことや様々な職業を扱い、外国語を使用した職業を紹介するなどキャリア教育につながる題材を取り入れている。(6年前見返し、P104、105等)</p> <p>ウ 登場人物に外国に由来する人物を扱い、クラスに身近に溶け込んでいることで、国際理解をより身近にさせる工夫がある。(5・6年人物紹介頁等)</p>

外国語	英語	発行者番号 15	略称 三省堂	書名 CROWN Jr.
-----	----	----------	--------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア Listen&amp;Talk→Enjoy Listening→Talk to Friendsの流れの中で、言語活動を通して豊富なインプットから少しのアウトプットの構造となっており、ターゲット表現に少しずつ何度も触れて、確実に習熟が図られる配列になっている。</p> <p>イ 「音を聞きながら文字を目にすること」「少しずつ段階を追うこと」「『書く』は自分の言いたいことを書くこと」を意識して、楽しく文字が学べるよう配慮するとともに、随所に文字を掲示し文字が目に触れる経験を積み重ねる工夫をしている。(5年P25、34、48-49等)</p> <p>ウ 既習表現を繰り返し聞いたり話したりする、音声で学んだことを読んだり書いたりする、学んだ語彙や表現を実際に使う活動を行うなど、スパイラルに言葉の力が育成されるよう工夫されている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 自律的な学びを促すため、自分の学びを振り返るCAN-DOリストや表現のまとめの頁を設定している。また、会話を続ける工夫など児童の学びをサポートする頁を設定している。(5年P12-14、128、6年P101、128等)</p> <p>イ 文字は、児童の手本となる手書き文字書体が使用され、文字の大きさは読むのに適切な大きさになっている。4線の間隔は、大文字小文字がきれいに書けるよう配慮されている。(5年P48-49、6年P24等)</p> <p>ウ Panorama, Spotlight, Sound Chant, Word Chant, Words &amp; Phrasesなどには、QRコードを付し、デジタル機器を使って、語句や表現の音声を繰り返し聞けるようにしている。(5・6年P17-18等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 題材内容は学校生活や家庭生活などの児童に身近な内容から、日本の伝統文化、自然、将来の職業など、幅広い題材を取り上げ、児童の発達段階及び興味・関心に沿った内容が選択されている。</p> <p>イ 各学年の冒頭で「英語で言えるかな」を配置し、学年間のつながりを持たせ、既習表現や語彙について復習できるようにしている。(5・6年P8-11等)</p> <p>ウ HOP, STEP, JUMPで学ぶプロセスを「見える化」し、大単元を3つずつ配置している。大単元は、ねらいの異なる小単元を、段階を追って配列する構成となっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 文字については、5年生の最初の大単元でアルファベットの形、名称読み、音読みを一通り経験させており、その後は言語活動と経験させながら自分の考えや気持ちを伝える形で文字を経験させるように工夫している。(5年P18-25等)</p> <p>イ パターン化された紙面構成で、教師にも児童にも分かりやすい構成となっている。HOPでは、単元の全体像を把握する役割を持たせ、STEPでは、焦点化したインプットを経てアウトプットにつなげている。JUMPでは既習の語彙や表現を活用する2つの活動を配置し、場面や目的の明確な言語活動の中で、思考を働かせながら使用できるよう工夫されている。</p> <p>ウ Panoramaには、1枚の絵を配置し語彙やターゲット表現を大量にインプットできるように工夫している。(5年P16-17、6年P52-53等)</p> <p>エ 語順・音声・文字などについて、気づきの起こりやすい箇所の脚注に「気づきのヒント」を入れている。(5年P42、6年P29等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Storyでは、児童になじみのある物語を扱い、イラスト、場面、状況、分かる言葉などを頼りに推測する力を養うトップダウン型の活動が設定されている。(5年P19、6年P19、45等)</p> <p>イ 他教科等との関連を意識した題材が随所に配置され、他教科の既習の学びと結び付けられて児童の好奇心が高まるように工夫されている。(5年P60-61、6年P106-107等)</p> <p>ウ ことばや文化に関する各種コラムで、英語を学ぶことの意味やおもしろさへの気づきを促し、児童の世界を広げるよう工夫されている。(5年P110、6年P36-37、104-107等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 日本の伝統文化及び他国の文化、動物や自然、将来の職業など、幅広く児童の知的好奇心に合致するものが選択され、伝統や文化の尊重、国際的な視野、命や自然を大切にす心、主体的に社会に参画する態度などが育成できるように配慮されている。(5年P98-99、6年P36-37等)</p> <p>イ 書く活動で使用する語句のサンプルは、原則として上または左に配置し、児童が書き写しやすいうように配慮している。(5年P84、6年P24、50等)</p> <p>ウ 切り離して使える厚紙の豊富な巻末付録が用意されており、児童の興味・関心や活動をより豊かにするよう工夫されている。(5年時差時計、6年メモリーブック台紙等)</p>

外国語	英語	発行者番号 17	略称 教出	書名 ONE WORLD Smiles
-----	----	----------	-------	---------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア Final Activityでは音声で慣れ親しんだ語彙や表現をもとに、目的を持ってコミュニケーション活動を行うことができるよう工夫されている。(5年P20、30、6年P19、29等)</p> <p>イ Let's SingやSay it togetherで歌やチャンツで、ターゲット表現を何度も言ってみて口慣らしできるようにしている。(5年P14、17、6年P12等)</p> <p>ウ 導入単元の絵の中で扱った語彙を巻末のジングルとしてまとめるとともに、単元のページ下に1つずつ配置し、無理なくアルファベットの音に慣れ親しむようにしている。(5・6年巻末1、2)</p> <p>エ 各単元でどんなことをするのか、どんなことができるようになるのかを明確に示し、児童が目的をもって学習を進められるように配慮している。(5年P15、25、6年P13等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 活動の様子を表現した分かりやすいイラストを使用しており、また、単元はじめに目標を、単元末には目指す姿を示しており、児童が見通しを持って活動しやすいように工夫されている。(5年P47、55、6年P33等)</p> <p>イ 書く時のアルファベットに近い形状の書体を使用し、4線の幅は書きやすい比率のものを使用している。アルファベットカードには4線が入っており、4線に正しく書く際の参考となる。(5年巻末カード)</p> <p>ウ QRコードやURLが掲載されており、授業で扱う動画や音声を一覧で表示しており、児童が何度も視聴できるようにしている。(5・6年P3)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア クラス内での自己紹介から、学校や地域、国内、海外へと、学年や単元が進むにつれて徐々に視点が広がっていくように構成され、児童の発達段階や興味・関心に配慮されている。(5・6年P2-3)</p> <p>イ 中学年の内容を5年生の巻頭で振り返るページが用意されており、中学年との接続がスムーズにできるよう工夫されている。(5年P6-13等)</p> <p>ウ 「〇年生の英語の学習が始まるよ」で1年間の学習目標を明確にした上で、個々の学習意欲を喚起するよう工夫されている。(5・6年P5)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 映像を見る活動から入り、言語習得の順序を踏んで少しずつ発信活動へつなげている。単元ごとの大まかな流れを一定にしている。(5年P14-15、24-25、6年P12-13等)</p> <p>イ 単元末には、復習と振り返りのコーナーを設けている。学習の見通しをもちながら進め、最後には自己評価を記入し、単元ごとに自分の達成度を確認できるように工夫している。(5年P23、33、6年P21、31等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻末にワークシートやMy Book等が用意されており、単元の終末のコミュニケーションの目標が記載されており、自己の振り返りや学びの記録にも使用できることから、自己の達成感や成長を促せるよう工夫されている。(5年巻末ワークシート①-④ 6年巻末ワークシート①-⑨等)</p> <p>イ 他教科で学んだことを英語の学習で生かせるような教科横断的な内容を盛り込んでいる。(5年P72-75、90、6年P24、82-85等)</p> <p>ウ 「読むこと」について児童の負担に配慮し、紙面に掲載する文字量を抑えている。各単元末に音声と文字のコーナーを設け、文字に少しずつ慣れ親しめるようにしている。(5年P21-23、31-33、6年P20-21、30-31等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 自分の住む地域及び日本文化のよさを扱った教材や、他国の自然や有名なもの、世界遺産などを扱った教材を取り上げることで、生命を尊び、自然を大切に、伝統と文化を尊重し、我が国の郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮している。(5年L2、3、6、6年L2、3、5等)</p> <p>イ 5年生では、自己紹介、クラス誕生日カレンダー作りなど学級作りと連携を図れる活動が配置されるとともに、6年生では将来の夢等を扱いキャリア教育につながる内容を含めて構成されている。(5年L1、2、5、6年L8)</p> <p>ウ 巻末カードの切り取り等に時間を要さないよう、ミシン目が入っている。また、自己表現のためのワークシートや児童の表現を豊かにするシールなど、付録が工夫されている。(巻末カード・ワークシート・シール)</p>

外国語	英語	発行者番号 38	略称 光村	書名 Here We Go
-----	----	----------	-------	---------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 中学年や5年生の学習で慣れ親しんだ表現に、使用場面を変えてスパイラルに何度も出合わせ、定着を図ることができるようにしている。(5年P25、43、6年P21等)</p> <p>イ ターゲット表現は、Let's Listen and Let's PlayやLet's Chantなどで楽しく慣れ親しませ、簡単な練習→コミュニケーション活動→書く活動とスモールステップを踏んだ構成となっている。(5年P22-23、6年P20-21、22-23等)</p> <p>ウ Unitの終わりにAlphabet TimeやFun timeの時間を設け、Unitに関連させてアルファベットの大きい文字小さい文字を段階的に学べるようにしている。また何度も書く練習のできる「ペンマンシップ・ノート」が準備されている。(5年P28-29、60-61、6年P26-27等)</p> <p>エ あいづちや誉め言葉などのレスポンスや、伝えるわざとしてのジェスチャーを紹介しており、相手を意識して双方向の会話を自然に続けられるように工夫されている。(5・6年P23、6年90-91等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア World Tourという活動が設定されており、世界の映像を見て、グループで対話しながら考えるようにしている。グループで考える活動には、Thinkマークがついている。(5年P26、36、6年P24、34等)</p> <p>イ 4線の幅に配慮し、対応した新しいフォントを開発している。各教材では意図して大きな文字を使用している。(5年P20、23、6年18、21等)</p> <p>ウ QRコードが掲載されており、音声や映像、リンク集など学習を広げるウェブコンテンツを準備している。(5年P20、23、6年P18、21等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 季節や学校生活に対応するなど児童の興味・関心に即した教材配列になるよう配慮されている。(5年P40-47、6年P80-87等)</p> <p>イ Let's startでは前学年からの円滑な接続を図る頁が設けられている。また、6年生のUnit 9に中学校に向けての内容が扱われており、学校間の接続を意識している。(5年P10-18、6年P116-117)</p> <p>ウ 全UnitのGoalを目次に示すとともに、その学年でできるようになること(CAN-DO)を巻頭に掲載している。Let's play sugorokuでは、楽しみながら「英語でできるようになること(CAN-DO)」を確認できるようにしている。(5年P8-9、136、6年P8-9、140等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元のはじめのページが見開きで示され、単元のゴールまでの流れが見えるUnitの構成となっている。単元の最後には、「ふりかえろう」を設け、Unitの学習をCAN-DOの観点に加えている。(5年P21、31、6年P19等)</p> <p>イ 単元の導入にアニメーションが用意されており、コミュニケーションの目的や場面・状況を明確にしている。(5年P20-21、6年P18-19等)</p> <p>ウ 各UnitはHop!→Step1→Step2→Jump!の順で構成し、1つの見開きで統一している。基礎的な知識・技能の習得と活用から、思考力・判断力・表現力を養う言語活動へと至る学習の手順が共通している。(5・6年P6-7等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻末に学びのパスポートが用意されており、学年末に自身の成長を振り返り、次年度の活動に生かすことができるよう工夫されている。(5年P139、6年P143等)</p> <p>イ Fun Timeの「学びをつなげよう」「やってみよう」や単元の中で、他教科の学びを生かした活動が設定されている。(6年P37、69、75等)</p> <p>ウ 日本の伝統文化を尊重するとともに、自分の郷土のよさに気づいてそれを愛する態度を養うことのできる教材を配置している。(6年P28-35等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 世界12か国の子どもたちの生活の様子を継続的に取り上げて、他国への関心を高め、その文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うように配慮している。(5年P26、50-51、6年P24、34等)</p> <p>イ 自分にできること、できないことを紹介したり、なりたい職業を考えたり、世界で活躍する日本人を題材として取り上げたりする等、キャリア教育の視点を取り入れている。(5年Unit5、6年Unit8、P44等)</p> <p>ウ 阪神・淡路大震災の直後に小学校の教員が作った歌が、国内外で歌い継がれていることを紹介し、安全・防災への意識を促している。(6年P89)</p>

外国語	英語	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 Blue Sky
-----	----	----------	--------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア REVIEWのページが設定されており、場面や状況を変えて4技能5領域を統合した既習の表現を使用する活動が設定されている。「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力」を働かせる機会となる。(5・6年P40-41、72-73等)</p> <p>イ 基礎的な語彙や表現は、Listen and PlayやChantなどで明示して定着を促し、演習問題やコミュニケーション活動の中で繰り返し使用しながら身に付けられるようにしている。(5・6年P32-33等)</p> <p>ウ Let's Read and Writeでは5年で1文字ずつ取り上げ、1年間をとおして活字体を識別して書けるようにし、6年では慣れ親しんだ表現を用いて書いたり発表したりする活動が設けられている。(5・6年P19、29、39等)</p> <p>エ 各Unitの扉に既習事項を使ったやりとりや導入に適したSmall Talkに使える素材が多くあり、即興でやりとりをする場面が設けられている。(5・6年P30-31等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 毎時間に学習事項の振り返りができるようになっており、どれだけ達成できたかを振り返って色を塗り、児童が自分の成長を実感できるようにしている。(5年P12、14、6年P12、14等)</p> <p>イ 文字はUDデジタル教科書体を採用して、視認性・可読性を高め、4線の幅はローマ字の学習や中学校で一般的に使用されているものを使用している。行間にゆとりを持たせ、文章が読みやすいよう配慮している。</p> <p>ウ 紙面にQRコードが記載されており、家でも教科書に掲載されている表現の音声にアクセスでき、質の高い英語の音声に触れられるようにしている。(5年P32、39、6年P20等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 5年生では身近なことや知っていることを英語で表現する内容を多く扱い、6年生では、身の回りから少し離れた内容を知る学習を多く扱っている。(5年P30-37、6年P30-37等)</p> <p>イ Can-Do Listで2年間の4技能5領域別の目標が確認できるようにしている。(5・6年P120)</p> <p>ウ 5年生の最初にPre Unitを設け、各単元の扉では3・4年生での既習表現を使ったやりとりを設定、6年生最後のUnitでは中学校生活を題材として扱うなど、学年間・学校間の接続が図れるよう工夫されている。(5年P6-9、10、6年P84-91等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各単元は短く簡単な表現を聞くことから入り、単元の終わりに向かって緩やかに話す活動へと移行していく。6年生では短い文を書く活動を行い、最終のコミュニケーション活動へつながる流れで構成されている。(5年P30-37、6年20-27等)</p> <p>イ 見通しをもって学習を進められるよう、各単元の学習内容と目標を明記し、その目標に向けた各時間のめあてを設けてスモールステップで単元の目標に到達するようにしている。(5・6年P11-12等)</p> <p>ウ 各単元は、「導入」「インプット、インテイク」「アウトプット」「振り返り」の流れで構成されており、紙面は活動や演習の流れに沿ってほぼ行えるように作られている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 過去形或いは三単現などを連続した単元で扱って、表現に注目して配列している。(5年Unit4、5、6年Unit4、5、6)</p> <p>イ 演習問題やDid you know?で異文化の話題を取り上げたり、複数の人種の人々を登場させたりして、児童の興味関心を刺激し、児童が視野を広げ、国際理解・異文化理解を深められるようにしている。(5年P18、36、84-85等)</p> <p>ウ 町の道案内や地域の紹介などの題材を取り上げ、自分の住む地域について考える機会を設けている。(5年P80-81、6年P30-37等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 服や持ち物の色、社会的役割に対して性別による固定概念を植え付けないように配慮したり、困っている人を助ける場面や相手に配慮して会話をする場面を多く設けたりしている。(5年P34-35、73、94等)</p> <p>イ 将来就きたい職業について考える機会を設け、キャリア教育の一端を担えるようにしている。(6年P74-81等)</p> <p>ウ 巻末カードの切り取り等に時間を要さないよう、ミシン目が入っている。</p>

# 道德

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい道徳
----------	----------	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 教材名の右横に、内容項目が「学習のテーマ」として、子どもにわかりやすい表現で示され、児童が考える方向付けがなされている。</p> <p>イ 道徳の学習のイメージを捉えやすくするため、「道徳の学習を進めるために」「道徳の時間が始まるよ」などオリエンテーションページが充実している。(1年P4-5、4年P4-5等)</p> <p>ウ 興味に応じて、インターネットを活用して自分で調べられる教材には、Dマークが付けられている。活用の仕方は、裏表紙に記載されている。(目次ページで把握できる)</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア いじめ問題にかかわる教材は、扉ページと2つの教材を組み合わせたユニット型で、いじめ防止効果を高めている。(全学年目次ページで把握)</p> <p>イ 「問題を見つけて考える」が3年以上に設けられており、問題解決的な学習で学びを深められるようにしている。(3年P70、5年P117等)</p> <p>ウ 全学年の導入教材に「話し合いの約束」が示されている。(3年P5、6年P5等) また、他教科関連ページが3年以上に設けられている。(3年P51、6年P39等)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア 低学年では、キャラクター「こころん」が、教材の最初に語りかけるようになっており、考えさせたい価値について自分の考えを深められるようになっていく。(教材名の下に掲載)</p> <p>イ 「出会う・ふれ合う」マークの教材では、他者理解を助ける内容が扱われており、各学年に2つずつ設定されている。(1年P31-、3年P17-、5年P109-等)</p> <p>ウ 教材文の後の「考えよう①」では、道徳的価値の理解を深める問いが設定されている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 3年以上では「問題を見つけて考える」ページを設け、生活に生かしていくことができる問題解決的な学習を取り入れている。問題意識をもたせる問いかけや考えの進め方を示した「考えるステップ」のページがある。(4年P106、5年P29等)</p> <p>イ 3年以上の「つながる・広げる」マークの教材、全学年の巻末付録では、各教科等における道徳教育との関連を取り上げている。</p> <p>ウ 活動型教材として、子どもたちの多様な考えを引き出す工夫がある。(1年P70-72、4年P96-99等)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア キャラクター「こころん」の話しかける言葉を通して、児童が自分自身を見つめ振り返ることができるよう工夫がなされている。(4年P152、6年P39等)</p> <p>イ 巻末に児童が自らの学びを振り返り書くことで、自分の成長を見つめられるようなページがある。学習の記録、学習の振り返り、学習のまとめで構成された振り返りページである。(全学年巻末)</p> <p>ウ 教材文の後の「考えよう②」は、教材を通して学んだ内容をもとに自己を見つめられる投げかけとなっている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア いじめ問題や情報モラル(5年P164-166等)、安全・防災教育、食育、国際理解、平和などに対応した教材が準備されている。</p> <p>イ 折込みになっている教材、多様なタッチで描かれた挿絵など、児童の関心を惹きつける構成がなされている。(4年P92、6年P189等)</p> <p>ウ 現役で活躍中の人物や偉人として語り継がれる人物まで、幅広い分野の人物に関わる教材が扱われている。(4年P135、6年P40等)</p> <p>エ 裏表紙のQRコードをタブレット等で読み取れば、各学年4つの教材について内容に関わる動画が見られる。</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 11	略称 学図	書名 かがやけみらい
----------	----------	----------	-------	------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 「まなび」の冊子の中に、「まなび」のヒントのページがあり、学習の仕方を学年に応じて示している。(5年P50、4年P46等)</p> <p>イ 道徳の学習のイメージを捉えやすくするために、「きづき」の冊子の冒頭に「道徳の学習を始めよう」が設けられている。また、オリエンテーションページとして、「学級づくり」が設けられている。(1年P4、5年P4等)</p> <p>ウ 主体的に課題を発見することを促すために、「きづき」には発問や気づくためのヒントなどは書かれていない。</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 「きづき」と「まなび」の2分冊となっている。「きづき」は、読み物で構成されている。「まなび」は、児童の変容や成長が見やすいよう内容項目ごとの見開きページで構成されている。</p> <p>イ 35教材(1年34教材)とコラムで構成されている。</p> <p>ウ 文化の担い手としての意識を高められるように、ふるさとについての教材「ふるさとコラム」が「きづき」の巻末に位置づけられている。(1年P114、6年P146等)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア 「まなび」の最後の「みつめよう」において、本時の学習で扱う道徳的価値の理解につながる問いが設定されている。(1年P7、5年P7等)</p> <p>イ 視点と主題から道徳的価値に焦点化し、課題に向かう姿勢をつくるための工夫として、「きづき」の題名上に視点マークが書かれている。</p> <p>ウ 「まなび」では、同一の内容項目ごとに見開きページになっており、同一の価値についての理解を深められるよう工夫されている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 「きづき」の内容を受けて、さらに対話を促すような活動を「まなび」で設定している。対話を通じて多面的・多角的に考える力を育てられるように「きづき」と「まなび」が連動したつくりになっている。</p> <p>イ 「まなび」には、対話を通じて多様な考え方に触れられるよう、問いや活動が「考えよう」「やってみよう」マークで示されている。(5年P9、6年P19等)</p> <p>ウ いじめをなくすことや周りの人との関係について深く学べるよう、「ともにいきる」マークの教材が年間を通して設定されている。(目次ページ)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 「まなび」では、同じ内容項目について学習していくことで、自己の成長や考えの深まりが自覚しやすく、自己の考えが深められるページ構成がなされている。(目次ページ)</p> <p>イ 「まなび」の「つなげていこう」で、自己の未来につなげた振り返りができるようになっている。(4年P33、5年P7等)</p> <p>ウ 現役で活躍しているスポーツ選手など、子どもたちに身近な人物資料が扱われ、自己の生き方と重ねて考えを深められるようになっている。(3年P118、4年P36等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 写真も使われているが、イラストが多い。</p> <p>イ 注釈が、教材文の末に書かれている。(5年P27、6年P21等)</p> <p>ウ QRコードが全教材についており、導入で利用できる補助資料が入手できる。(きづき2年P42、4年P16等)</p> <p>エ 読み物コラムとして、情報モラル教育、いじめ問題、防災・安全教育、人権・福祉教育、キャリア教育などについて取り上げられている。(1年P29、6年P109等)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 17	略称 教出	書名 はばたこう明日へ
----------	----------	----------	-------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各教材の最初に「学習のねらい」が示されており、児童が考える方向付けがなされている。(6年P6、P10等) また、キャラクター「とりどり先生」が、児童の気づきや深い学びへ導く問いかけを行っている。(3年P14、5年P18等)</p> <p>イ 1年間の学習が見通せるよう「○学年の道徳の学習が始まるよ」が設けられている。(目次の次のページ)</p> <p>ウ 道徳的価値を意識しながら考えを進められるように、各見開きページの右上に視点のアイコン、主題が明記されている。また高学年では、関連する教材名が明記されている。(5年P6、6年P16等)</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 授業の流れに沿って学習を整理しやすいように、各教材の最後に「考えよう・深めよう」がある。また、「考えよう・深めよう」には、複数の問いが用意されている。(高学年4～5問程度) (5年P130、135、6年P15、29等)</p> <p>イ 内容項目ごとに教材がまとめてある。(各学年目次ページ)</p> <p>ウ 「いじめをなくす」「生命尊重」「情報モラル」についての内容は、<sup>※</sup>マークで特に重点化されていることが可視化されている。(目次)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア 自分の体験を通して価値理解できるように、「考えよう・深めよう」の中に「やってみよう」を設け、動作化や役割演技などの体験的な学習が位置付けられている。(2年P15、37、4年P91等)</p> <p>イ 「考えよう・深めよう」を教材ごとに設け、道徳的価値の理解を深めることのできる問いを位置付けている。</p> <p>ウ 価値理解を深めていけるよう、各学年の発達段階に応じて教材がスパイラルに位置付けられている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 「いじめをなくす」「生命尊重」「情報モラル」に関わる教材を、多面的・多角的に議論できる教材として位置付けている。<sup>※</sup>マーク) (1年P20-、4年P54-等)</p> <p>イ 道徳的価値をより深め、学校や地域の実態に応じて弾力的に活用できるよう、巻末に補充教材が用意されている。(1年4本、2年以上5本) (2年P120-131、6年P144-163等)</p> <p>ウ 対話的な学習により、他者と意見を交流しあうなどの問題解決的な学習が促される学びの手引きが設けられている。</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 多様な人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられ、特に上学年では顕著である。(全学年で50名程度の先人や偉人) (5年14名、6年18名)</p> <p>イ 自分の成長に気づけるように、巻末の学びの記録の中に「道徳の学習を振り返ろう」が位置付けられている。 (4年P156-159、6年P164-167等)</p> <p>ウ 「自分の意見を書いてまとめること」(4年P57、66等) や「友達と話し合うこと」(5年P17、35等) を促す問いが取り入れられており、自分の生き方や考え方を深められるよう工夫されている。</p> <p>エ スキルマークの教材で、体験を通して人としての行いについて考えられるようになっている。(1年P36、5年P79等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 食育、防災教育、法教育、健康教育、キャリア教育などの現代的課題に対応した教材を取り挙げている。(巻末の学習内容一覧)</p> <p>イ 思考の妨げにならないように、難語句や歴史上の出来事等についての脚注がある。(5年P29、102等)</p> <p>ウ 低学年の巻末に、礼儀やマナーについて示された折込みページが設けられている。また、3年以上では、学習に役立つ情報を得られる「学びリンク」が設けられている。(裏表紙の中付け)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 38	略称 光村	書名 きみがいちばんひかるとき
----------	----------	----------	-------	-----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 漫画形式、写真、一枚絵やデータをもとに考える教材など、児童の発達段階を考慮した取り上げ方がなされている。(2年P22、5年P64等)</p> <p>イ 児童が考えたり活動したりする助けとなるようキャラクター「こころん」と「きらりん」が設定され、学び方や活動のモデルが分かりやすく示されている。また、オリエンテーションページが充実している。(3年P4、6年P4等)</p> <p>ウ 更なる学びを深めるために、テーマに関連した類似図書を示している。(3年P71、173等)</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 学校生活とそれに伴う児童の1年間の成長を考慮して、1年間を3つの「学習のまとめり」に分けている。(目次)</p> <p>イ 道徳の学習で最も大切にすべき内容を「命」と捉え、巻頭に「みんな生きてる みんなで生きてる」の文言が全学年共通して示されている。(全学年P1)</p> <p>ウ 1時間1時間の学びが、児童の考えの深まりをより促せるよう、内容項目の関連に配慮した順序を意識して、教材が配列されている。(1年P52-60、3年P126-136等)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア 道徳的な価値に迫るための中心的な問いが、「考えよう・話し合おう」の中で示されている。(1年P25、6年P119等)</p> <p>イ 話し合いを促進し、多様な考え方に触れられるような内容として「なんだろう なんだろう」(3年P98、5年P108等)「心を通わそう」(3年P38、5年P36等)が設定されている。</p> <p>ウ 全学年で、道徳的行為に関する体験的な学習として、より良い人間関係を築くための技能について具体的に示した巻末付録がある。(4年P189、6年P216-217等)</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 読みもの資料の後に、「つなげよう」が示されている。「つなげよう」では、他教科と関連する図書の紹介や同じ内容項目との関連、生活の中で考えてほしいことが捉えられるようになっている。(2年P105、4年P29)</p> <p>イ 一つの教材に複数の観点を取り入れたり、手引きでいくつかの視点を示したりしている。</p> <p>ウ 物事を多面的・多角的に考えることができるよう、教材とコラムを一つのユニットにまとめて取り扱っている。(2年P68-77、6年P42-54等)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 自分の成長を自覚することができるように、学習のまとめりごとに「学びの記録」が設けられている。(3年P178、6年P212等)</p> <p>イ 自分の行いを振り返ったり、これからの生活の中で考えてほしいことや他教科との関連を考えたりする場となるように、キャラクター(きらりん)が、「つなげよう」で問いかけている。(2年P21、4年P117等)</p> <p>ウ 5年以上の巻末付録「あなたへのメッセージ」において、各分野で活躍している人物から、児童が自分のこととして捉え考えられるような言葉が示されている。(5年：辻井伸行、滝川クリステル(P199)、6年：田中真弓、山中伸弥(P215))</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 道徳科の時間以外にも活用可能なコラムを各学年に配置している。(3年P70、6年P54等)情報モラル、いじめ問題、環境、国際理解、福祉・共生の5つのテーマが設けられ、3年以上に位置付けられている。低学年では、情報モラル、いじめ問題を取り上げている。(1年P60、2年P77等)</p> <p>イ 難語句の説明や難しい漢字にルビがふってある。読みのつまずきを軽減するために、1年では行頭に助詞が来ないように配慮されている。</p> <p>ウ QRコードが設けられている教材では、朗読、動画、関連資料などの学習支援が準備されている。(1年P68、5年P94等)</p> <p>エ 伝統文化や地域に目を向けるページが巻末に設けられている。(5年P202、6年P218等)</p> <p>オ 教材の特徴に応じて、登場人物ごとに上段下段に分けて教材文が記載されるなどの工夫がなされている。(5年P37「すれちがい」)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 116	略称 日文	書名 生きる力
----------	----------	-----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア ガイド役のキャラクター「ココロウ」と児童の思考をサポートするキャラクター「りさ、なおや、あかね、はるひこ」が登場し、学習を促している。</p> <p>イ 興味関心をもって教材に向かい合えるよう、写真が多く使用されている。(1年P8、4年P116等)</p> <p>ウ 児童の主体的な学びを促す工夫として、巻頭のオリエンテーションページの「道徳のとびら」で、学習内容やそのねらいが図で示されている。(各学年巻頭)</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 学校の実態、児童の実態に応じて、柔軟に指導計画が立てられるように35(1年生は34)教材と付録教材で構成されている。(2年P154、5年P172等)</p> <p>イ オリエンテーションのページ「道徳の学び方」で、体験活動、言語活動(書く、話し合う)を重視している。(各学年P2~)</p> <p>ウ 現代社会にふさわしい児童の道徳的価値を育むために、指導内容の重点化を図る内容には、それぞれ複数の教材を配置している。(いじめに関する内容で3教材と「心のベンチ」で構成されたユニットなど)(5年P76-91等)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 押さえない価値に焦点化できるようキャラクター「ココロウ」が、教材ごとに導入になる言葉を語りかけている。(全教材)</p> <p>イ 児童が道徳的価値と関連付けて思考を進めることができるよう、各教材の冒頭に主題名が明示されている。(全教材)</p> <p>ウ 教材に対する児童の理解を助けるため、教材の冒頭であらすじや登場人物が示されている。(全教材)</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 考えを広げ深めるために「心のベンチ」が設けられている。(3年P92-93、4年P130-131等)</p> <p>イ 友達の意見を聞き、考えを深めていけるよう学習の手引きとして、問題解決的、体験的学習の参考となるページが設けられている。(1年P52-53、6年P16-17等)</p> <p>ウ 自分の意見や友達の意見、話し合いの内容などを記録し、自分の考え方をさらに広げていけるように、道徳ノートの自由記述欄が広く設けられている。</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 自らの成長の記録を蓄積していくことができるよう道徳ノート(別冊)が付属している。また、教材ごとに、自分の学びを振り返る自己評価欄がある。(全教材)</p> <p>イ 道徳ノートの巻末に、児童が自らの学びを振り返り書くことで、自分の成長や保護者に自分の考えを伝えることを促すページがある。保護者記入欄もあり、家庭との連携を図るために活用できる。(2年P40、6年P40等)</p> <p>ウ 教材ごとに自分の考えを整理できるよう、キャラクターの問いかけ「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」が設けられている。(全教材)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 教科書の裏表紙(中)にある学習指導要領内容項目別一覧の中に、テーマ、手引き、デジタル教材等との関連が見開きで示されている。</p> <p>イ いじめ防止、安全の確保(防災・防犯、交通安全)、情報モラル、伝統文化教育、持続可能な発展にかかわる教材等幅広く取り扱っている。(目次)</p> <p>ウ 巻末「明日をみつめて」で、各学年に応じた偉人の言葉が示されている。(3年P176、4年P184等)</p> <p>エ 学習に役立つデジタル教材が、ホームページ上に準備されている。</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 208	略称 光文	書名 ゆたかな心
----------	----------	-----------	-------	----------

項目		特徴
つ 学 習 方 法 の 工 夫 に い て	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 児童の主體的な思考を促すため、児童に寄り添うキャラクター「みらいさん、ゆたかさん、トーリー、わんだ先生」が登場する。</p> <p>イ 道徳性を養う意義を児童自ら考え、目的意識をもって取り組めるようにオリエンテーションページ「さあ、道徳の学習が始まります」（全学年P2-9）が設けられている。</p> <p>ウ 「まとめる」「広げる」について考えることで、学習を振り返り、授業後の活動へとつながるようになっている。（5年P49、95、2年P21、63等）</p>
い て 内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 学校や地域の実態に応じて弾力的に取り扱えるよう、35（1年生は34）教材と付録教材5～6教材で構成されている。</p> <p>イ 各教材の冒頭に、その教材を通して考えさせたいことや問いが示されている。（1年P10、2年P10等）</p> <p>ウ 生命尊重については、6年間を通して重点主題として扱っている。（巻末一覧）</p>
道 徳 の 目 標 に 関 連 す る 工 夫 に つ い て	③価値理解・人間理解・他者理解を深めたいための工夫	<p>ア 道徳的価値の理解を深められるように、重点主題の教材マークを定め、複数の教材を続けて学習できるようにしている。また、目次ページでは、「〇学年で特に考えたいこと」として色とマークで分かりやすく示している。（目次で確認）</p> <p>イ 価値理解を深めるために「まとめる」として、その時間に学習したことを振り返るポイントを提示している。（2年P31、4年P19等）</p> <p>ウ 価値の理解を深められるよう、教材文の後に自分の考えを書くことができる欄が設けられている。（2年P79、4年P147、5年P49等）</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 児童自身の考えを深めたり広げたりするために、キャラクターが「なぜ?」「どうして?」と思考を深める問いを投げかけている。（4年P21、6年P19等）</p> <p>イ コラム「言葉の宝物」、道徳のノートの作成例、「みんなでやってみよう」のコーナー等を設け、言語活動や体験的な活動を通した学びを促している。（6年P9、167等）</p> <p>ウ 「みんなでやってみよう」が全学年に設定されており、発達段階に応じた様々なグループワークが提示されている。（1年P32-33等）</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 短い言葉で授業や自分の考えを記録に残せるよう、巻末に学びの足跡のページが設けられている。（巻末折込み）</p> <p>イ 教材ごとに、学んだことが他教科等につながるような投げかけとして、「広げる」が設けてある。（3年P13、27、55等）</p> <p>ウ 児童が人物の生き方や考え方から自分自身について考えられるよう、身近なスポーツ選手を取り上げている。（3年内村航平（P62）、5年内川聖一（P92）他）</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア コラムの一つに「ちびまる子ちゃん」マークがあり、よりよい学校生活を送るための一助となる体験活動を促すページが設けられている。（3年P156、5年P144）</p> <p>イ 情報モラル、いじめの問題、生命の尊重、防災教育、キャリア教育についても、教材の中に取り入れている。（目次および巻末）</p> <p>ウ 合理的配慮の一つとして、3年以下は、すべての漢字に振り仮名がふってある。4年以上は、前学年までの既習漢字の使用にとどめている。また、思考の妨げにならないように、難語句等については、脚注が設けてある。（6年P158「あらめ」、P56「過料」等）</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 224	略称 学研	書名 新・みんなの道徳
----------	----------	-----------	-------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 意見文、物語、詩、劇、歌、漫画、詩と漫画を組み合わせたものなど、多様な形式が取り入れられている。</p> <p>イ 特定の価値観を明示せず、児童自ら課題を見つけて考えられるようになっている。</p> <p>ウ 巻頭に「道徳の学習が始まるよ」が示され、学び方のヒントを知ることができる。巻末には、「心の宝物」など自分を見つめたり振り返ったりできるページが設けられている。</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 教材ごとに「考えよう」を配置し、個人や集団で意見をもつことができる。</p> <p>イ 重点テーマを「いのちの教育」とし、全学年にわたって複数の教材を扱っている。「命」と「生き方」についてそれぞれ2教材ずつユニット単元として配列している。(目次ページで把握できる) (3年P68、72、5年P28、32等)</p> <p>ウ 発達段階に合わせた教材配列になっている。特に、1年は絵が多い教材から文章の長い物語へととなっている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 学び方のページ「深めよう」では、学習した内容をさらに追及することもでき、道徳的価値についての理解を深められる。 (2年P93、4年P97等)</p> <p>イ 巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中に、価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための手がかりが、発達段階に応じて具体的な児童の姿として示されている。</p> <p>ウ 価値の理解を深められるように、ユニット教材には、それぞれの教材での学びを関連させて自分の考えを記載する欄がある。 (1年P25、6年P33等)</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 「やってみよう」のページでは、教材で学習したことを体験型の学習(役割演技)を通して、様々な考え方や意見に出会うことができる。 (1年P29、3年P13、5年P69等)</p> <p>イ いろいろな立場(登場人物)に立って自分事として考えることができる教材がある。(4年P60、5年P40等)</p> <p>ウ 教材に関する様々な情報を提供し、児童の視野を広げられるように、「広げよう」が設けられている。(2年P84、3年P55等)</p> <p>エ 家庭と連携する学習活動として、家マークを提示し、家族の意見を聞き、深く考えられるようになっている。(2年P139、4年P59等)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 学び方のページ「つなげよう」では、グラフなどが示されており自己を見つめ、自分の生活や生き方につなげて考えられるようになっている。(4年P111、6年P79等)</p> <p>イ 1冊全体で1年間の自分の成長を感じ、これからの生き方を考えていけるよう、巻頭の自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページが設けられている。</p> <p>ウ 教材文の後の「考えよう」で、考えを深め自己を見つめるきっかけとなる投げかけが設定されている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 子どもたちに身近な存在である人物を扱い、キャリアモデルとして学べるようになっている。(3年P78、6年P102等)</p> <p>イ 幅広い視点から学習できるよう、いじめ防止につながる教材を複数扱っている。 (1年8教材、2年6教材、3年8教材、4年6教材、5年5教材、6年7教材)</p> <p>ウ 情報モラルをはじめ現代的な課題への対応に関する教材が取り入れられ、課題を自分との関係において考え、解決していこうとする態度を育てられるようになっている。情報モラルに関する教材には、本文中にマークが示されている。(2年P132、4年P136等)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 232	略称 廣あかつき	書名 小学生の道徳
----------	----------	-----------	----------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 授業の事前・事後・導入・終末など、授業者の指導計画や児童の実態に応じて柔軟に活用できるよう、道徳ノートが付属している。</p> <p>イ 教材の最後に「考えよう話し合おう」が設定されており、児童の主体的な学びを促すことができる。教材ごとの学びの手がかりとしても位置付けられている。(全教材)</p> <p>ウ 自分で必要に応じてノートと教材を関連付けられるよう、それぞれの題名の下に関連ページが記載されている。 (6年教材P86、94と道徳ノートP14等)</p> <p>エ 3年以上では、「学習の道筋」にめあてを示し、児童が主体的に学べるようにしている。(全教材)</p>
内容の構成・配列について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 読み物と道徳ノートが別冊になっている。</p> <p>イ 発達段階に応じた重点項目と教材配置がなされている。複数の教材を2時間連続で扱うなど、より重点的に学べるようになってきている。(4年P32-、36-、6年P32-、36-等)</p> <p>ウ 指導者の意図や児童の実態に応じた柔軟な活用ができるように内容項目を一つに絞らず複数示した教材もある。 (全学年内容一覧ページ)</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア ノートには、発達段階に応じた分かりやすい言葉で道徳的諸価値が説明されている。(全ページ)</p> <p>イ 「考えよう話し合おう」の中には、「学習を広げる」が設けられ、教材に関連した道徳的諸価値の更なる深まりを促す内容や役割演技(5年P9等)や調べ学習(3年P25、41等)人物紹介(6年P145等)などについての内容が示されている。</p> <p>ウ オリエンテーション「道徳の時間はこんな時間」(1年「どうとくのかんがははじまるよ」)では、発達段階に応じた表現で学び方が示されており、それぞれについて説明されている。(各学年P1-)</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 教科書で学んだ道徳的諸価値について、多面的・多角的にとらえて意識できるように、5、6年の道徳ノートには「体験活動の記録」のページが後半に設けられている。(ノート5年P46、6年P46等)</p> <p>イ 家族の考えを知り、考える機会をもつことに役立てられるように、道徳ノートの「心のしおり」には、家庭との連携を図る欄がある。(ノート巻末)</p> <p>ウ 他者の多様な感じ方や考え方に触れたり、新たな考え方や見方につながる視点を得たりできるように、みんなで考え、話し合う協働的な学習が位置付けられている。(2年P91、6年P93等)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 授業ごとや学期ごとに自己評価ができるよう、巻末折込みとして「心のしおり」がある。(ノート巻末)</p> <p>イ 道徳ノートは、内容項目ごとに問いが掲載されており、自問と内省へ導き、道徳的思考を深める工夫がなされている。(全ページ)</p> <p>ウ 自分自身を見つめて考えられるよう、功績を残した人物、現在活躍する人物についての教材を多く扱っている。(5年P42、6年P12等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 道徳教育と家庭や地域との連携を促すために、周りの人と関わる問いを取り入れている。 (道徳ノート1年P15、2年P16、3年P16、4年P21、5年P22、6年P17等)</p> <p>イ 現代的な課題にかかわる「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」について考える特集が設けられている。各教材と併用して扱うこともできる。(5年P150-155、6年P158-163等)</p> <p>ウ いじめ防止に関わる内容について、児童の発達段階を考慮し、4年以下では「いじめ」を明示せず、高学年のみいじめ問題を明示している。(1年P60、4年P76、5年P54、6年P26等)</p> <p>エ 合理的配慮の一つとして、難語句について読み仮名が振ってある。</p> <p>オ 補助的な内容についての情報を得るため、ホームページのアドレスが目次に記されている。</p>